ヨ-5×48
14.7-33イ

宮崎県立図書館

宮崎県

藏版

法華經

明治十一年七月印行

ムール
ロン氏佛蘭西民法覆義卷之二

附言

一書中古語若クハ特ニ注意ヲ要スヘキ所ニハ弦線ヲ加ヘタルヲ改メ此卷ヨリ以下更ニ圈點ヲ施シ以テ之ヲ識別ス讀者之ヲ諒セヨ

明治十一年五月

譯者誌

ムール ロン氏 佛蘭西民法覆義卷之二

目錄

○第二卷　身分証書
○第一章　總則
○第一節「アクト、ド、レターシビール」身分証書ノ解○身分証書ノ緊要ナル事○身分証書沿革ノ要領
○第二節　身分証書ノ登記ニ就テ出席ヲ要スル人員
○第三節　身分証書ノ完成ニ關スル外分ノ

體裁

○第四節　身分証書ヲ登記スヘキ簿册

○第五節　身分証書登記ノ後之ニ副ヘ置クヘキ証書

○第六節　身分証書ニ關シ法律ニ於テ定メタル罰則及ヒ之ヲ管守スル民生官吏ノ責任

○第七節　簿册ヲ公明ニスル事及ヒ簿册ヲ眞正ト爲ス事

○第八節　身分証書ノ未タ在ラサル乎若クハ失ヒタル時之ヲ補フヘキ方法

○第九節　外國ニ於テ登記セラレタル身分証書

○第二章　出産証書

○第三章　婚姻証書

○第四章　死去証書

○第五章　佛蘭西國外ニ在ル兵士ニ關スル身分証書

○第六章　身分証書ノ改正

○第三卷　住所

○第一節　總則
○第二節　眞ノ住所
○第三節　特定ノ住所
○第四卷　失踪○總則
○第一章　失踪ノ思料
○第二章　失踪ノ公告
○第三章　失踪ノ公告ニ由テ生スル効
○第一欵　失踪者其失踪ノ際所有セシ財産ニ關スル効
○第一節　財産ノ假有及其効
○第二節　財産ヲ共通スル配耦者其共通ヲ繼續シ又ハ之ヲ解除スル爲メニ有スルノ權理
○第三節　確定ノ所有
○第二欵　失踪者ニ屬スルヿアルヘキ權理ニ於ル失踪ノ効
○第三欵　婚姻ニ關スル失踪ノ効
○第四章　父ノ失踪セシ時其遺留セシ幼者ノ管督

ムール氏佛蘭西民法覆義卷之二

谷井元次郎　譯

東京帝國大學圖書之印

第一編　身分證書　千八百〇三年三月十一日決定同月二十一日布告

第一章　總論

第一節　「アクト、ド、レター、シビール」身分證書ノ解〇身分証書ノ緊要ナル「〇

身分証書沿革ノ要領

〔第二百二十四〕(一)「アクト、ド、レター、シビール」ノ解

「アクト」ナル語ハ我法律語ニ於テ其意義二アリ一ハ、

一　凡百ノ人爲即チ其行ヒタル所爲ヲ云ヒ二ハ其所爲

ニ就テ後日紛爭ヲ生スル時之ヲ證スル爲メニ記シタル所ノ書面ヲ云フ

故ニ「アクト、ド、ウバント」ト云ヘハ或直チニ賣却スル所爲ヲ指シ或ハ之ヲ証スル爲メノ書面ヲ指ス

此卷ニ所謂「アクト」ナル語ハ常ニ或ル事實ヲ証スル爲メニ記シタル書面ヲ指シテ云フ

「エター」トハ社會ニ在テ人ノ有スル身分ヲ云フ即チ丁年者若クハ幼年者、後見ヲ免レタル者若クハ之ヲ免レサル者、治産ノ禁ヲ受ケタル者若クハ之ヲ受ケサル者、既婚者若クハ未婚者、養子ヲ爲シタル者若クハ養子ト爲リタル者、嫡出ノ子若クハ私生ノ子、生者若クハ死者等是ナリ而シテ此等ノ身分即チ分限ハ吾人ノ權利及ヒ義務ノ由テ生スル所ナリ斯ノ如ク種々ノ分限アルヲ以テ由テ生スル所ノ權理、義務モ亦隨テ差別アリ而シテ其分限ニ應シ共ニ興廢變易ヲナスモノナリ

分限モ亦其淵源スル所アリ爰ニ其首タル事項ヲ示シ之ヲ左ニ掲ク

出産

後見ヲ免ルヽ事

婚姻
養子
治産ノ禁ヲ受クル事
私生ノ子ヲ認ムル事
死去

是等ノ事項ハ之カ爲メ特ニ設ケラレタル民生官吏ノ記シタル書面即チ調書ニ之ヲ詳載セサル可ラサルモノトス

此書面即チ調書ハ凡ヲ人ノ民事上ニ於テ有スル分限ノ由來スル所ノ諸事項ヲ登載シタル者タレハ名ケテ之ヲ「アクト、ド、レタール、シビール」身分證書ト謂フ故ニ「アクト、ド、レタール、シビール」トハ特ニ設ケラレタル民生官吏ノ記シタル吾人カ民事上ニ於ル分限ヲ組成スル所ノ諸事項ヲ證スル爲メノ書面ヲ云フ

〔第二百三十五〕 法律ニ於テハ人生ニ管スル首タル三事項ノ爲メ各々其簿冊ヲ設定セリ出産、婚姻、死去是ナリ而シテ私生ノ子ヲ認ムル事及ヒ養子ノ事モ亦之ヲ前同一ノ簿冊ニ記入センコトヲ欲シタリ（第六十二條第三百五十九條）然レトモ後見ヲ免ルヽ事、夫婦ノ分居及ヒ治産ノ禁ハ之ニ記入セサルモノタリ蓋シ簿冊ノ大部ニ過

キ遂ニ其首タル三事項（出産、婚姻、死去）ノ捜索ヲ難フスルノ恐アルヲ以テナリ

後見ノ免除ハ勸解裁判所ノ書記局ニ備ヘタル簿冊ヲ以テ證セラル可シ（第四百七十七條及第四百七十八條）又治産ノ禁ヲ受ケタル者、分居シタル夫婦ノ如キ裁判言渡ニ由テ受タル分限ニ至リテハ其裁判所ノ書記局ニ備ヘタル簿冊ヲ以テ證セラル可シ

〔第二百三十六〕（二）身分證書ノ緊要ナル事

出産證書ハ左ノ諸件ヲ證明スル爲メノ者ナリ

第一　年齢

佛蘭西ノ法律ニ於テハ某ノ年齢ニ至ラサレハ敢テ施行ヲ許サヽルノ權理アリ而シテ過半ハ皆此類ノ者トス（第百四十四條、第百四十八條、第百五十三條、第三百十五條、第三百十三條、第三百八十四條、第三百七十六條、第四百七十三條、第四百七十八條、第四百七十八條、第百二十一條、第七百二十二條、第九百〇三條、第九百〇四條、第二千〇六十六條）故ニ人若シ他人ト取引ヲ爲ントスルニ際リ其最モ至要ナルモノハ本人ノ丁年ナルト否卽チ其能力ノ有無ヲ知ルニ在リ依テ何人ヲ論セス其出産證書ノ抄出書ヲ請求スルヿヲ得但シ斯ノ如キ所爲ハ稍本人ヲ疑フニ似タルヨリ萬一其意ヲ損ハントスルノ恐アル時ハ公

然タル身分證書ノ管守者ヨリ之ヲ付與セシムルヲ得ヘシ

第二　自ラ嫡出ノ子ト稱スル者ノ子タル事但シ此時ニ當テハ其引證スル出産證書ノ能ク其本人ニ適スルヤ否ヲ認定スルヲ要ス（第三百十九條）

第三　夫ノ死亡後三百日内ニ生レタル子ノ嫡出タル事（第三百十九條）

婚姻證書ハ左ノ件ヲ證明スル爲メノ者タリ

第一　婚姻（第四百九十四條）夫婦雙方互ニ盡ス可キ義務及ヒ其子ニ對スル義務

第二　夫婦ノ結緣間ニ生レ若クハ懷胎セシ子ノ嫡出タル事（第三百十二條）

第三　婚姻セシ婦ノ不能力タル事及ヒ其金圓上ノ權理ニ於ル保證トシテ夫ノ財産ニ就テ有スル法律上書入ノ權ノ事（第二百七十七條及ヒ第二千百二十一條）

故ニ其取引ヲ爲ントスル者ノ既婚者タルヤ否ヲ知ルハ即チ緊要ノ事ナリトス例ヘハ爰ニ一婦人アリ我ニ向テ銀料ヲ借ントスルカ或ハ我カ家屋ヲ購ハントスル時該婦ノ已ニ寡婦タルカ又ハ丁年ノ未婚者タルニ於テハ全ク其能力ヲ有セルヲ以テ我ハ安

穩ニ之ト契約スルヲ得ヘシ若シ之ニ反シ既婚者タルニ於テハ夫或ハ裁判所ノ允許ヲ得サレハ法ニ適シタル契約ヲナス可キ能力アラサルカ故ニ通則ニ遵從セシ上ニ非レハ我ハ敢テ其契約ヲ肯セサルナリ

又爰ニポールナル者アリテ我ニ銀料ヲ借ントスルニ際リ該氏ノ已ニ婚姻セシヤ否ヲ知ルハ我ニ於テ其益蓋シ尠キニ非ス他ナシ該氏若シ既婚者タレハ其婦已ニ其財産ニ就テ書入ノ權ヲ有スルカ故ニ若シ保証ヲ得スシテ之ニ銀料ヲ貸渡スキハ後日必ス

我ノ損失トナルヲ以テナリ

死去証書ハ左ノ諸件ヲ証明ス

第一　權理ヲ得ヘキ能力ヲ止ムル日時例ヘハ生存スレハ其所得ト爲ル可キ遺物相續ヲ得ルノ權ヲ止ムル日時（第七百二十五條）

第二　自己ノ遺物相續ヲ行フ可キ日即チ其最近ノ遺物相續人タル親戚ノ權理ヲ判定スル爲メノ時限（第七百十八條及ヒ第七百二十五條）

第三　婚姻ヲ解ク可キ日即チ其配偶者ハ寡婦（又ハ鰥夫）ト爲ルヲ以テ更ニ新婚ヲ契約スルノ自由ヲ

得ル日第百六十條、第三百八十四條、第三百九十七條、第三百八十九條、第四百〇五條、第四百五十三條、第二千〇〇三條、第六百十七條、第千〇

〔第二百三十七〕(三)身分証書沿革ノ要領

身分証書ノ制設ハ實ニ第一世フランソワーノ功績ニ係レリ抑中古ニ在テハ單ニ僧侶カ二三ノ帳簿ヲ具ヘ洗禮、婚姻及ヒ葬祭ノ事ヲ証明セシト雖ヒ到底不規則ノ者ニシテ其本源ヲ尋ルニ只管宗教上ニ關スル法則ノ執行ヲ固フスル爲メノ目的ニ外ナラス故ニ裁判上之ヲ充分信據ス可キ公正ノ証書トシテ見認ムル者ナク而メ若シ身分ノ事ニ就テ爭ヒヲ生ス

ル時之ヲ証スル爲メ別ニ書類ノ存セサルニ方テハ一ニ證人ノ証據立ニ依賴セシノミ

斯クテフランソワー第一世ハ「ビレール、コテレー」ノ王命「ビレール、コテレー」ハ地名フランソワー曾テ此地ニ於テ發令セシニ因リ蓋シ之ヲ王命ノ名トス以テ前記ノ帳簿ニ登載シタル諸事項ハ皆之ヲ充分ニ信據セシメント欲シタリシカ惜ヒ哉僅ニ二個ノ件項ニ過ギサリシ

二個ノ件項トハ其一出産其二「ベ子ヒース」「コレージュ」又ハ「モナステール」ヲ有ナタル僧侶ノ死去是ナリ此王命ニ欠漏アルヿハ世人ノ已ニ知ル所ナリ即ナ

一ニ衆庶ノ出産二ニ「ベヲヒース」ヲ有ヲタル僧侶ノ死去ニ就テハ裁判上其証據ヲ保ンカ爲メ一ノ簿冊ヲ設ケタレモ其「ベヲヒース」ヲ有タサル者ニ至リテハ死去及ヒ婚姻ノ如キモ更ニ之ヲ一定セル所ナキヲ以テナリ

出産ト婚姻トノ間ニ斯ノ如ク區別アルノ所以ハ之ヲ了解スルヲ得ス然レモ「ベヲヒース」ヲ有ツ者ト有タサル者トニ於ル區別ハ史乘ニ據テ之ヲ辨解スルヲ得ヘシ今之ヲ左ニ示サン

「プラグマチック、サンクシヨン」僧侶ニ管スル特別ノ法則ノ行ハル

ヽ時ニ當テハ「エベーク」僧官ヲ任スルノ權特リ國王ニ屬セス又法王ニモ屬セスシテ專ラ公撰ニ由リ之ヲ授任シタルモノナリシカルイヽ第十一世ノ時姑ク此制ヲ停メ次テ第一世フランソワニ至リ全ク之ヲ廢止シ更ニ他方ニ改メタリ其方タルヤ國王先ツ「エベーク」ト爲ス可キ候補ヲ撰擧シテ之ヲ法王ニ告ク法王ハ其撰擧ニ從ヒ直チニ之ヲ命スルノ制ナリ然ルニ「コンコルダー」宗教上ノ事ニ就テ國王及ヒ法王ノ際ニ締ヒシ條約ヲ云フノ第一條ニ於テ國王ノ撰擧ヲ須タス直チニ授任スルノ權ヲ以テ之ヲ法王ニ付セシヨリ遂ニ不測ノ弊

害ヲ生スルニ至レリ例ヘハ爰ニ富饒ノ「ベヂヒース」ヲ有ナタル「エベーク」アリ而メ其命ノ旦夕ニ逼ラントスルニ際セハ數多ノ僧侶其遺續ヲ渴望シ各〻密使ヲ發シテ其起居ヲ覘ハシメ、若シ其死亡スル時ハ該使ヲシテ其喪ヲ秘シ即時ニ之ヲ通牒セシメ隨テ羽書ヲ羅馬ニ馳スル者比々皆然リ是レ他ナシ國王ノ未タ代任ヲ撰擧セサルニ前ンシ法王ヨリ直チニ其代任ヲ命セラレンコヲ欲スルカ爲メナリ第一世フランソアーハ深ク此弊害ヲ察シ之ヲ矯正センカ爲メ公然タル一個ノ簿冊ヲ設ケ凡ツ「ベヂヒース」ヲ有ナタル僧侶ノ死去ハ少ラクモ猶豫スルヿナク節次之ニ記入ス可キヲ命シタリ

此王命ニ由リ設定セラレタル簿冊ハ「シャピトル」僧官一員及ヒ公証人一員之ニ署名セサルヲ得ス而メ各年末ニ至リ之ヲ「バイイマージュ」ノ書記局ニ藏ム

「キュレー」僧侶ハ此簿冊ヲ以テ專ラ宗教上ノ者ト爲セルカ故ニ公証人ノ之ニ干與スルヿヲ忌嫌セシカ漸クニシテ其遂ニ干與セサル所トナレリ

〔第二百三十八〕「ブロワー」ノ王命（千五百七十七年五月ハンリー第三世ノ發セシ王命）ニ由テ「ビレール、コテレー」ノ王命ニ於ル欠漏ヲ

補充セリ即チ「キュレー」ト「ビケール」官ト二命シ衆庶ノ出産、婚姻及ヒ死去ノ簿冊ヲ保存セシムル是ナリ蓋シ其旨趣ハ裁判上屢己ムヲ得サルニ出ル所ノ証人ノ証據立ヲ避ケントスルニ在リ

「ビレール、コテレー」及ヒ「ブロワー」ノ王命ニ於テハ簿冊ノ書式ヲ規定セサルヲ以テ之ニ記入セサル可ラサル所ノ陳述及ヒ出席ヲ要スル人員ノ如キモ特ニ之ヲ示定セサリシカ千六百六十七年ルイ、第十四世ノ時ニ當リ之カ制規ヲ定メ即チ埋葬証書ニ於テハ死去ノ時刻又洗禮証書ニ於テハ出産ノ時刻ヲ記

入シ且ツ其簿冊ハ正副二本ヲ制備スヘキノ命令ヲ發セリ次テルイ、第十五世ニ至リ千七百三十六年四月九日ノ王命ニ由テ二個ノ正本ヲ制備シ其一本ハ「バロワッス」ニ留メ一本ハ「バイヤージュ」ノ書記局ニ藏ムヲ可キヿヲ要セリ

是等ノ王命ハ單ニ舊教ノ信者ニ管スル所ニシテ新教信者ノ身分ニ至リテハ夫ノ「エジー、ド、ナント」ハリー第四世新教ノ自由ヲ公許セシ布令ノ故アルヲ以テ該宗ノ「ミニスト」僧官其會堂ニ收存セル簿冊ニ據テ之ヲ証明スルモノタリ然ルニルイ、第十四世ノ時此「エジー、ド、ナン

ト」ヲ廢止セシニ因リ新教ノ「ミニストル」ヲ黜斥シ隨テ其身分ヲ証明スルノ方法ヲ排棄セリ此ニ於テカ獨リ舊教ノ「プレートル」僧官ヲ存スルノミ故ニ出産、婚姻又ハ死去ノ証書ヲ保存スルモ又該僧官ノ權ニ歸スルヨリ新教ノ信者ハ或ハ舊教ヲ奉スル如キ外様ヲ表シ舊教ノ「プレートル」ニ依テ其出産、婚姻、死去ヲ証明スル者アリ或ハ民事上ノ分限ヲ抛却シテ嫡出ノ子ヲ有セサラント決スル者アルニ至リシカ國王ルイ、第十四世此ノ情況ヲ察知シ遂ニ千七百六十七年ニ於テ復タ新教ノ自由ヲ許シ而メ其分限ハ住地ノ裁判吏員ニ由リテ之ヲ証明スルヿヲ聽用セリ爾來二類ノ簿册ヲ設ケ一ハ舊教信者ノ爲メニ「キュレー」僧官之ヲ保存シ一ハ新教信者ノ爲メニ司法警察官吏ノ保存スル所トス

〔第二百三十九〕 千七百八十九年ノ大革命ニ因テ更ニ二個ノ大主義ヲ生セリ即チ宗教自由及ヒ民法ト宗法トノ分裂是ナリ故ニ身分証書ハ敢テ宗教ニ管セサル者ト爲レルヲ以テ左ノ二件ハ已ニ存スルヿ能ハストス

第一 舊教信者ト新教信者ト各固有ノ簿册ヲ分

置スル事

第二　各宗ノ「ミニストル」ニ簿册ノ保存ヲ委任スル事

是ヲ以テ一ニハ各人民ノ婚姻、出産、死去ヲ證スルニ敢テ之カ區別ヲナサス全ク同一ノ方法ヲ以テシ又一ニハ此等ノ諸件ハ總テ宗教ノ法式ニ管セス純然タル文官ヲ以テ之ヲ證ス可キヲ決定セリ而シテ全國ヲ數區ニ分チ各區會議ニ於テ其區ノ居民中ヨリ一人若クハ數人ヲ撰ミ之ニ身分證書ノ保存ヲ委任セリ千七百九十年九月二日ノ法律　次テ共和政第三年「プリュビオーズ」二十八日ノ法律ニ由リ更ニ邑長及ヒ副邑長ヲ以テ之ニ任シタリ此法律ハ現今尚ホ行ハルヽ所ノ者ナリ

○第二節　身分證書ノ登記ニ就テ出席ヲ要スル人員

〔第二百四十〕　身分證書ノ登記ニ預ル可キ者ハ通例左ノ如シ

身分證書ノ官吏

證據人

陳述人

但シ場合ニ因リ必ス本人ノ出席ヲ要スルヿアリ

〔第二百四十一〕(一)身分證書ノ官吏

身分證書ノ官吏ハ證據人ノ面前ニ於テ陳述人ノ陳ル所ニ隨ヒ其證書ヲ登記シ且其目下ニ實視シタル事ヲモ亦證明ス可シ第五十五條及第七十七條此登記ノヿニ任セラルヽ所ノ民生官吏ハ各邑ニ於テ邑長及ヒ副邑長ナリトス

邑長及ヒ副邑長ハ其邑ノ支配人トシテ看ルヽハ全ク州長ノ管督ニ屬ス故ニ其支配上ノ事ニ就テハ預メ參議院ノ允許ヲ得タル後ニ非レハ之ヲ裁判所ニ

召喚スルヿヲ得ス

邑長及ヒ副邑長ハ身分證書ノ登記人トシテ看ルヽハ巳ニ支配人タル可キ者ニ非ス即チ司法警察官吏タレハ撿官ノ管督ニ屬ス故ニ其職務上ノ事ニ就テハ參議院ノ允許ヲ要セスシテ直チニ之ヲ裁判所ニ召喚スルヲ得ヘシ

〔第二百四十二〕(二)證據人第三十七條

身分證書ノ登記ニ於テ證據人ノ務ム可キモノ二アリ左ノ如シ

第一　證據人ハ陳述人ノ別人タラサル事ト其陳

述ノ正實タル事トヲ擔保ス

第二　證據人ハ身分証書ノ官吏ノ証明ヲ固フス

蓋シ數人ノ管督ヲ欺罔シ又ハ之ヲ連累タラシメ以テ姦計ヲ行フハ固ト容易タラサル事ナレハナリ

證據人ハ証書ノ種類ニ隨ヒ其員ヲ異ニスレヒ大率二名ヲ以テ足レルモノトス（第五十九條第七十八條及ヒ第八十九條）但シ第九十六條ニ定メタル場合ニ於テハ三名ヲ要シ又婚姻ノ証書ニ於テハ四名ヲ要スルモノトス（第七十五條）

公證書ニ於ル証據人ハ身分証書ノ官吏ノ撰ム所ナレヒ身分証書ニ在テハ然ラス其之ニ管スル者自ラ之ヲ撰ム可シ

公證書ト身分証書トノ間ニ於ル殊別ハ啻ニ此事ノミニ止ラス而メ公證書ノ登記ニ就テ召喚セラレタル證據人ハ左ノ三件ヲ要セラルヽモノトス

第一　佛蘭西ノ國士タル事

第二　手署ス可キ能力アル事

第三　証書ヲ登記スル郡内ニ居住スル事

此レ身分証書ノ登記ニ於ル証據人ニ對シテハ敢テ

需要ノ件ナラス故ニ身分証書ノ証據人ハ手署ス可キ能力及ヒ証書ヲ登記スル郡内ニ居住スル事等ヲ要セラレサルノミナラス佛蘭西人タル分限モ亦要セサル所ナリ況シテ國士タル分限ノ如キハ固ヨリ以テ論ヲ待ス唯男ニシテ二十一歳以上ノ者ヲ以テ足レリトス蓋シ身分證書ハ短縮ナル期限内ニ之ヲ登記セサルヲ得サルニヨリ法律上其証據人ニ對シ容易ニ有ル可ラサルノ分限就中僻地ニ於テハ要シ以テ其登記ヲ妨ルカ如キ事アル可キニ非サレハナリ

〔第二百四十三〕 法律ニ於テ更ニ又一歩ヲ進メ身分証

書ノ証據人ハ之ヲ登記スル民生官吏若クハ其証書ニ關スル者ノ血族ヲ以テスルヿヲ許シタリ第七十八條

然ルニ公証書ニ於テハ公証人及ヒ其証書主ノ血族ハ其等親ノ如何ヲ問ハス又其傍系ノ親族ハ三等親ニ至ル迄ハ其証據人トナリテ出席スルヿヲ許サス共和政第十一年「ウヴンドーズ」二十五日ノ法律但シ此區別ハ自ラ辨解シ易キモノタリ即チ公証書ノ証據人ハ証書主ノ中其一方ノ親戚タヲサルヲ可トス他ナシ本人等ノ利益ハ其親戚ノ利益ト互ニ合混スヘキモノタレハ或ハ不正ノ所爲アランノ恐アルヲ以テナリ身分証書ニ在

テハ然ラス親戚ノ保証ハ反テ確實ノ者ナリトス他ナシ親戚ハ其証書ニ登記スル所ノ事項ニ就テ大抵自家ノ利益ヲ害セラルヽヿアル可キニ因ル設ヘハ伯叔父タル者其甥姪ノ出産ヲ証スル如キハ己レ該子ノ父若クハ母ノ最近ノ相續人タル分限ヲ止メラルヽヲ以テ自ラ是レ自家ヲ害スルナリ故ニ其証據立ハ更ニ之ヲ疑フ可キノ理由ナシトス

〔第二百四十四〕(三)陳述人

陳述人トハ証書ニ於テ証明セサル可ラサル諸事項ヲ了承シ而シテ之ヲ身分証書ノ官吏ニ陳述スル者ヲ云フ但シ身分証書ノ官吏ハ其陳述ニ隨ヒ直ニ之ヲ登記スヘシ

〔第二百四十五〕 陳述人ト証據人トヲ混同セサルヲ要ス即チ証據人ハ男ニシテ且ツ二十一歳以上ノ者ニ非ルヲ得ス而シテ陳述人ハ特ニ要セラルヽ所ノ條件ナシ故ニ子ノ出産ハ婦女ト雖モ其陳述ヲ爲スヲ得ヘク加之凡ソ信據ス可キ陳述ヲ爲スニ足ルノ分別ヲ具フレハ幼者タリトモ亦之ヲ爲スヲ得ヘシ第五十六條

且ツ夫レ証書ニ管スル者モ自ラ其陳述人ト爲ルヲ得故ニ出産ハ其子ノ父ヨリ之ヲ陳述スルヲ得ヘシ」

又或ル場合即チ死去証書ニ於テハ陳述人ハ同時ニ其証據人タル可シ此時ハ男ニシテ且ツ二十一歳以上タルヿヲ要ス

〔第二百四十六〕(四)証書主第三十六條

証書主トハ其將ニ登記セントスル証書ノ本人(婚姻証書ニ於テハ夫婦)又ハ証明セントスル事項ノ相管スル者(出産証書ニ於テハ其子ノ父又死去証書ニ於テハ死者ノ最近ノ親族)ヲ云フ

出産及ヒ死去証書ハ其本人不在ノ時ト雖モ之ヲ受領セラル可シ而メ本人ノ現在スル時ハ自ラ出席スルカ又ハ代人ヲ以テス可シ但シ其代人ハ公正ノ部理委任狀ヲ携帶スルヲ要ス

部理委任狀トハ其委任者ヨリ代人ニ托スル事項ヲ明記シタル証書ヲ云フ

公正即チ公証書ヲ要スルモノハ凡ソ至重ノ物件ニハ毫モ疑ナカランヲ欲スルヨリ私証書ニテハ之ヲ委ヌルニ足ラサルヲ以テナリ凡ソ私証書ヲ以テ任シタル代人ハ其公正ノ代人ヨリモ更ニ保証ノ少キモノトス

第三十六條ハ時トシテ本人ノ自ラ出席スルヿヲ要

セシモノナリ然ルニ何等ノ場合ニ於テ之ヲ要スルヤ「コード」ニ在テハ單ニ一個ノ場合ヲ明示シタレモ今已ニ實行ス可ラサルモノタリ何トナレハ曾テ廢止セラレシ離婚ノ事ニ關スルヲ以テナリ（第二百九十四條）

婚姻ニ關シテハ法律上明カニ本人ノ出席ヲ要セサルヲ以テ或ハ代人ニ依テ之ヲ行フヲ得ヘシト決スルヿアラン然レモ法律ニ於テハ婚姻証書ヲ領掌ス可キ身分証書ノ官吏ヲシテ其夫婦ニ對シ將ニ契約セントスル互相ノ義務ヲ朗讀セシムルヲ定規トス是レ暗ニ夫婦ノ出席ヲ要スル所ナリ現ニ若シ夫婦ニ對シテ此朗讀ヲ爲サス其代人ニ對シテ之ヲ行フヿハ蓋シ其本義ヲ失フ者ト謂ハサル可ラス

○第三節　身分證書ノ完成ニ管スル外部ノ體裁（第三十四條）

〔第二百四十七〕（一）身分証書ニ於テハ左ノ諸件ヲ登記セサルヲ得ス

第一　証書ヲ收受セシ年、月、日、時

此件ノ登記ハ甚タ緊要ノ者タリ今其類例ヲ擧ケ以テ之ヲ詳明セン即チ或ル場合ニ於テハ身分証書ハ法律ニ一定セル期限内ニ之ヲ登記セサルヲ得ス（第五

十五條 然ルニ若シ登記ノ時日ヲ記入セサルキハ何ニ據テ其定期内ニ収受セラレシヤ否ヲ知ルヲ得ン

又其証書ヲ贋造トシテ排斥セラルヽヿナキニ非ス例ヘハ其登記ノ時立會タル者トシテ証書ニ記入セラレタル者ノ中其一人此登記ニ關セサリシヿヲ表明センカ爲メ當時他行中ナリトノ辭柄ヲ取ルヿアランニ此時ハ証書ヲ登記シタル日時ニ據テ果シテ其他行中ナリシヤ否ヲ檢定スルヲ得ヘシ

又既婚者タル丁年ノ婦女ハ其未タ婚セサル前ハ能力アリシ者タレヒ已ニ婚スル際ヨリハ不能力者トス

爲ル可シ故ニ其婚姻執行ノ日時ヲ詳知スルヿヲ要

第二 証書ニ記入セラルヽ者ノ氏名、年齡、職業及ヒ住所

是レ其別人タラサルヿヲ詳カニセンカ爲メナリ

〔第二百四十八〕(二)身分証書ノ官吏ハ出席人ノ要セラレタル陳述ノ外何事ヲ論セス註釋說明ノ爲メ其証書ニ記入ス可ラス 第三十五條

其要セラレタル陳述トハ法律ニ於テ証書中ニ記入

ス可キヲ命シタル者ヲ云フ

故ニ出席人ハ法律ニ於テ要セラレタル者ノ外更ニ他事ヲ陳述スルヲ得ス又身分証書ノ官吏ハ他事ヲ要求シ又ハ之ヲ受ルヲ得ス

身分証書ノ官吏ハ出席人ノ陳述ヲ中裁シ又ハ之ヲ註釋シ又ハ裁定スルノ權ヲ有セス而メ其職務ハ全ク所受ニ止ルモノトス此ニ於テカ二個ノ大主義ヲ生ス左ノ如シ

第一　身分証書ノ官吏ハ其之ニ陳述セサル可ラサルノ事項ト雖モ若シ其出席人ノ默過スルヤ

ハ敢テ登記スヘカラサル事

例ヘハ出産証書ニ嫡出ノ子ニ於ル父母ノ氏名ヲ記入スルヿハ法律ノ要求スル所ナレモ其陳述人若シ之ヲ默過シタル時ハ身分証書ノ官吏ハ敢テ之カ登記ヲナス可ラス

第二　身分証書ノ官吏ハ法律上許ス所ノ陳述ノミヲ登記シ其他ノ事ハ假令陳述ヲ受ルト雖モ之ヲ登記ス可ラサル事但シ其陳述ヲ要スル諸件ハ第二章、第三章及ヒ第四章ニ之ヲ叙述セン故ニ姦通又ハ亂倫ノ子タル事ハ假令出席人ノ陳述

ト雖モ之ヲ出産証書ニ記入ス可ラス（第三百三十五條及ヒ第三百四十二條）又私生ノ子ノ父ト陳述セラレシ者ノ氏名ハ公正ノ部理委任狀ヲ以テ委任セラレタル出席人ノ陳述ニ非レハ之ヲ出産証書ニ記入ス可ラス（第五十七條及ヒ第三百四十條ノ註釋ヲ觀ヨ）

〔第二百四十九〕（三）身分証書ノ官吏ハ証書ヲ記了シタル後出席人及ヒ証據人ニ對シテ之ヲ朗讀シ且ツ此朗讀ノ式ヲ行ヒシヿヲ証書ニ付記ス可シ（第三十八條）

此式ハ讀法、書法ニ通曉セサル出席人ナシテ今其登記セラレタル証書ノ其陳述ト同一ナルヤ否ヲ檢閲セシメンカ爲メニスル者タリ又証書ニ之ヲ附記スルハ正ニ此式ニ注意シタルヲ証シ且ツ當時此式ヲ行ハスシテ後日或ハ之ヲ行ヒタリト云フカ如キ官吏ノ公簿上ニ詐僞ヲ行フノ恐アルヲ以テナリ但シ此ノ詐僞ヲ行フタル官吏ハ無期苦役ノ刑ニ處セラルヽモノトス

〔第二百五十〕（四）朗讀ヲ爲シ及ヒ此式ヲ行ヒシヿヲ証書ニ附記シタル後出席人、証據人及ヒ身分証書ノ官吏ハ該証書ニ各其姓名ヲ手

署スヘシ若シ出席人又ハ証據人其姓名ヲ手署スルヿ能ハサレハ其旨ヲ附記ス可シ

第三十九條

○第四節　身分証書ヲ登記ス可キ簿册

從第四十條至第四十四條

〔第二百五十一〕　身分証書ノ保存ヲ堅固ナラシムル爲メ法律ニ於テ左ノ件ヲ要求セリ

第一　身分証書ハ之ヲ亡失又ハ破損シ易キ所ノ零紙ニ登記ス可ラス總テ釘装シタル簿册ニ之ヲ登記ス可シ

第二　身分証書ハ二本ヲ備ヘタル一或ハ數多ノ簿册ニ之ヲ記入ス可シ

昔時ニ在テハ出産、婚姻及ヒ死去ノ爲メ單ニ二本ヲ備ヘタル一卷ノ簿册ヲ設ケシノミナリシカ千七百九十二年ノ法律ヲ以テ毎卷二本ヲ具ヘタル三卷ノ簿册ヲ製設シ其一卷ハ出産一卷ハ婚姻一卷ハ死去ノ爲メニスル者ト定メタリ是レ他ナシ各種ノ証書ニ特個ノ簿册ヲ設ケ以テ其捜索ニ便ヲ與ヘント欲スルニ在リ然レ𪜈實際ニ於テハ往々此ノ本旨ヲ失フニ至レリ蓋シ邑吏タル者大半其教育ヲ受ケサル

ヨリ反テ簿册ノ多キニ惑ヒ之ヲ便用スルヲ知ラス而メ三簿册中未タ年末ニ至ラサルニ其記事已ニ塡充シ又記ス可キノ寸紙ナキ時ハ爲メニ附錄ヲ設ケテ之ヲ補フノ慮ナク此ニ記入スヘキ証書ヲ以テ他ノ簿册ノ餘白ニ雜記セシカ故ニ出産証書ノ簿册ニ死去証書ヲ記入シ死去証書ノ簿册ニ婚姻証書ヲ記入スルヿヲ致スニ至レリ

「コード」ニ於テハ此弊ヲ遏絶センカ爲メ簿册ヲ管守スル民生官吏ノ教育ヲ受ケタル者ニハ三卷ノ簿册ヲ授ケ一卷ハ出産一卷ハ婚姻一卷ハ死去ノ爲メニ

スルモノト定メ又教育ヲ受ケサル者ニハ此三項ノ爲メニ唯其一卷ヲ授ルノミ故ニ其捜索ニ至リテハ蓋シ時間ヲ費サヽルヲ得サレモ以テ確然タルヘシトス

初告裁判所長ハ邑ノ情況就中其大小ニ由ヒ一卷若クハ三卷ノ簿册ヲ邑吏ニ授ク可キヤ否ヲ判定ス可シ但シ僻陬ノ邑吏ニハ通例一卷ヲ授ルモノトス

一卷若クハ三卷ノ簿册ノ設アルニ關セス法律ニ在テハ必ス二本ヲ備フルヲ要ス而メ甲（一卷ノ簿册ノ設ケアル邑）ニ於テハ二個ノ正本ニ出産、婚姻、死去ヲ列記シ乙（三卷）

ノ簿冊ノ設ケアル邑ニ於テハ出産、婚姻、死去ノ爲メ各二個ノ正本ヲ備フヘキモノタリ

婚姻ノ公告ハ之ヲ例外トシ單簿即チ二本ヲ備ヘサル簿冊ニ登記ス

故ニ身分証書ハ右ニ示シタル例外ノ外総テ再度ノ登記ヲ爲ス可ク之ヲ詳言スレハ二本ノ簿冊ニ記入スルモノタリ是レ他ナシ其亡失ヲ預防センカ爲メナリ而メ又法律ニ於テハ更ニ好手段ヲ設ケ二本ノ簿冊ヲシテ各其場所ヲ異ニセシメ以テ貯藏センヿヲ欲シ乃チ一本ハ邑ノ書房モ貯ヘ一本ハ初告裁判

所ノ書記局ニ藏ムルモノトセリ此方法タルヤ證書ノ保存ニ關シ最モ實益アルモノトス何トナレハ非常ノ事變ニ遇フニ非レハ之ヲ貯藏シタル書房ノ一所ヲ掠奪セラレ若クハ火災ニ羅ルヿアルモ他ノ一所ハ尚ホ之ヲ免ル可キヲ以テナリ

第三　身分証書ノ登記ニ就テ身分証書ノ官吏ニ呈示セサル可ラサル諸般ノ書類ハ(代人ヲ以テスル時ハ委任狀ノ謄本又婚姻ニ管シテハ夫婦爲ラントスル者ノ出産証書ノ抄出書等ナリ)其登記シタル証書ニ添ヘ初告裁判所ノ書記局ニ

藏ム可キ簿冊ノ副本ト共ニ同局ニ送ル可シ但シ此書類ヲ出シタル人ト（後日ニ至リ之ヲ示サヽリシト主張セサルカ爲メ）身分証書ノ官吏トハ預メ之ニ横線ヲ畫スヘシ

〔第二百五十二〕 法律ニ於テハ身分証書ノ亡失ヲ致ス可キ不慮ノ災害ヲ預防シタルノミナラス其變更廢棄又ハ際急ノ贋造ヲ禦ンカ爲メ其方法ヲモ亦之ヲ製設シ因テ左ノ諸件ヲ要求セリ

第一 身分証書ヲ記入ス可キ簿冊ハ初告裁判所長又ハ代理ノ裁判官タル者其初葉ト冊尾トニ記號ヲ附シ且ツ毎葉ニ横線ヲ畫スヘシ故ニ其簿冊ヲ製スル者ハ身分証書ノ官吏ニ非スシテ裁判所長ヨリ授ケラル可キモノトス

身分証書ノ官吏ノ授ケラレタル簿冊ハ初葉ト冊尾トニ記號ヲ附シ且ツ毎葉其番數ヲ記スルモノタリ但シ初葉ト冊尾トハ特ニ明瞭ナル記號ヲ附ス可キニヨリ例ヘハ紙數百枚ノ簿冊ナレハ裁判所長ハ其初葉ニ第一葉ト記シ冊尾ニ第百葉及ヒ終葉ト記シ又毎葉ニ其横線ヲ畫ス可シ

記號ヲ附スルノ所以ハ身分証書ノ官吏ヲシテ妄リ

証書ハ其本人ノ請願ニ由リ身分証書ノ官吏之ヲ記載ス可シ

第一　現今用フル所ノ簿冊

第二　該証書ヲ以テ説明シ又ハ變更スル所ノ已ニ登記シタル証書ノ欄外

其事項ノ若シ其身分証書ヲ登記シタル年内ニ發生シ而シテ其記入ヲ願出ルトキハ身分証書ノ官吏ハ尚ホ二個ノ簿冊ヲ管守スルニヨリ即チ其各簿ニ之ヲ記入スヘシ又既ニ其一冊ヲ裁判所ノ書記局ニ藏メタル後ニ願出ル時ハ唯其邑ノ書房ニ在ル簿冊ニノミ

記入シ裁判所ノ書記局ニ藏メシ所ノ簿冊ニハ其書記官ヲシテ記入セシメンカ爲メ三日内ニ其裁判所ノ檢官ニ之ヲ報告スヘシ但シ檢官ハ二個ノ簿冊ニ同一様ノ記入ヲナスヘキヿヲ監察スヘシ

故ニ一旦私生ノ子ト記入セラレシ子後日若シ其父母ヨリ認メラレタル時ハ一ニハ現今所用ノ簿冊ニ其認定ノ証書ヲ記入シ又一ニハ二個ノ簿冊ニ於ル其出産証書ノ端ニ之ヲ記入ス可シ（第六十二條）

○第六節　身分証書ニ關シ法律ニ於テ定メタル罰則及ヒ之ヲ管守スル身

ニ紙葉ノ增減ヲ爲サシメサランカ爲メナリ又横線ヲ誌スルノ所以ハ其變更ヲ防カントスルニ在ルナリ」

第二　身分証書ハ空行ナク相連接シテ簿冊ニ登記シ且ツ塗抹及ヒ端書ノ符合ニ於ルモ一々自認シテ其姓名ヲ手署ス可シ而メ略語ヲ用フ可ラス又數字ヲ以テ年、月、日ヲ記ス可ラス蓋シ略語ハ疑ヲ生シ易ク數字ハ容易ニ變更スルヲ得ヘキニ因ル例ヘハ0零ヲ以テ9九ト爲スノ類是ナリ

第三　身分証書ノ簿冊ハ毎年末ニ至リ身分証書ノ官吏之ヲ閉緘ス故ニ年末ニ至ル毎トニ身分証書ノ官吏ハ最終ノ証書ニ次テ左ノ文ヲ載ス

我輩此簿冊ヲ閉緘ス。云々ト而メ此文ノ後ニ在ル紙葉ニ記入シタル証書ハ総テ贋造ノ者ト看做ス可シ

簿冊閉緘ノ後一月内ニ其一冊ヲ邑ノ書房ニ他ノ一冊ヲ初告裁判所ノ書記局ニ藏ム可シ

○第五節　身分証書登記ノ後之ニ副ヘ置ク可キ証書（第四十九條）

〔第二百五十三〕　身分証書登記ノ後之ニ副ヘ置ク可キ

証書ハ其本人ノ請願ニ由リ身分証書ノ官吏之ヲ記載ス可シ

第一　現今用フル所ノ簿冊

第二　該証書ヲ以テ説明シ又ハ變更スル所ノ已ニ登記シタル証書ノ欄外

其事項ノ若シ其身分証書ヲ登記シタル年内ニ發生シ而シテ其記入ヲ願出ルトキハ身分証書ノ官吏ハ尚ホ二個ノ簿冊ヲ管守スルニヨリ即チ其各簿ニ之ヲ記入スヘシ又既ニ其一冊ヲ裁判所ノ書記局ニ藏メタル後ニ願出ル時ハ唯其邑ノ書房ニ在ル簿冊ニノミ

記入シ裁判所ノ書記局ニ藏メシ所ノ簿冊ニハ其書記官ヲシテ記入セシメンカ爲メ三日内ニ其裁判所ノ檢官ニ之ヲ報告スヘシ但シ檢官ハ二個ノ簿冊ニ同一様ノ記入ヲナスヘキヿヲ監察スヘシ

故ニ一旦私生ノ子ト記入セラレシ子後日若シ其父母ヨリ認メラレタル時ハ一ニハ現今所用ノ簿冊ニ其認定ノ証書ヲ記入シ又一ニハ二個ノ簿冊ニ於ル其出産証書ノ端ニ之ヲ記入ス可シ（第六十二條）

○第六節　身分証書ニ關シ法律ニ於テ定メタル罰則及ヒ之ヲ管守スル身

分証書ノ官吏ノ責任（從第五十條至第五十四條）

〔第二百五十四〕前ニ講究シタル諸法式ハ或ハ之ニ背キシ了アルモ其証書ハ更ニ無効ニ属スヘキモノナラス蓋シ法律ニ於テハ人ノ分限ヲ以テ之ヲ身分証書ノ官吏ノ怠慢或ハ不信實ニ属セシムルヲ欲セサルニ因ル然レモ此本義ヲ推及シ凡ソ身分証書ハ假令法式ニ適合セス且ツ其要件ヲ欠クト雖モ猶ホ之ヲ身分証書トシテ裁判所ニ呈スルヲ得ヘシト信ス可ラス因テ按スルニ零紙又ハ身分証書ノ官吏ノ私簿又ハ紙葉ニ記シタル証書等ニハ身分証書ノ性質ヲ

属ス可ラサルナリ

法律ニ於テハ其示定シタル諸法式及ヒ諸方法ニ能ク注意セシメンカ爲メ其義務ヲ怠リタル身分証書ノ官吏ニ對シ諸般ノ刑典ヲ設ケ其刑典ハ事件ノ種質ニ從ヒ以テ變更スルモノタリ而メ法律ニ預定シタル者三アリ左ノ如シ

〔第二百五十五〕(一)身分証書ノ官吏ノ不注意ニ非レモ更ニ能ク注意ヲ加フレハ防クヿヲ得ヘキ不慮ノ事件ニ因ルカ又ハ他人ノ所爲ニ因テ生シタル証書ノ破損又ハ

變更

此件ニ於テ身分証書ノ官吏ノ受ク可キ刑ハ全ク民事上ニ止リテ即チ損失ノ償ナリ之ヲ詳言スレハ其怠慢ニ由テ分限ヲ害セラレタル者ニ對シ償金ノ名義ヲ以テ拂フ可キ金額ヨリ組成スルモノトス

又此變更若クハ破損カ他人ノ所爲ニ係ル時ハ其證書主ハ其之ヲ爲シタル者ニ對シ損失ノ償ヲ要ム可シ但シ其思量ニ從ヒ注意ヲ怠リ遂ニ此妨害ヲ防ク能ハサリシ身分証書ノ官吏ニ對シテ之ヲ求ムルヲ得ヘシ此時身分証書ノ官吏ハ其所爲ノ本人ニ對シ復タ其償ヲ訴フ可シ

〔第二百五十六〕(二)過失又ハ怠慢ニ由テ生シタル註誤及ヒ遺忘例ヘハ略語ヲ用ヒ又ハ數字ヲ以テ年、月、日ヲ記シ若クハ氏名ノ記入ヲ遺忘セル等ノ事

此時ハ二個ノ刑ヲ受ク可キモノタリ即チ其身分証書ノ官吏又ハ書記官ハ左ノ刑ニ處セラル可シ

第一　百「フランク」以下ノ罰金

第二　註誤又ハ遺忘ノ爲メ損害ヲ受ケタル者ニ對スル償金

罰金及ヒ損害ノ償ハ共ニ民事裁判所ニ於テ之ヲ言渡ス可シ而シテ甲ハ檢官ノ要求ニ因リ乙ハ被害者ノ請願ニ因テ行フ可キモノトス

凡罰金ハ刑事ニ係ルモノタレハ輕罪裁判所ニ於テ言渡サヽルヲ得サルカ如シ然ルニ法律上斯クセサル所以ノモノハ民生官吏ノ職タル常給ナキヲ以テ之ヲシテ輕罪裁判所ノ言渡ヲ受ケ衆庶ノ輕蔑ヲ招カシムルヲ欲セサルニ在リ

又二三ノ場合ニ於テハ註誤若クハ遺忘ト雖モ禁錮ノ刑ニ處セラルヽアリ但シ罰金ト同シク亦民事

裁判所ニ於テ之ヲ言渡ス可シ（第百五十六條第百九十二條及ヒ第百九十三條）

身分証書ヲ零紙ニ記シタル時ハ即チ一ノ輕罪ヲ組成シ一月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル禁錮ノ刑及ヒ十六〔フランク〕以上二百〔フランク〕以下ノ罰金ニ處セラル可シ此レ已ニ民事裁判所ニ於テセスシテ輕罪裁判所ニ於テ言渡ス可キモノトス（刑法第百九十二條）

〔第二百五十七〕（三）贋造及ヒ故意ノ變更

此罪ニ因テ刑セラル可キ身分証書ノ官吏ハ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ケ而シテ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

但シ被害者ニ對スル損害ノ償ト相抵觸ス可ラス（刑法第百四十五條）

〔第二百五十八〕 檢官ハ身分証書ニ關スル註誤遺忘又ハ輕罪ヲ探求スヘシ故ニ簿册ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏ムル時其實況ヲ檢閲シ而シテ其檢閲ノ調書ヲ略記シ若シ註誤或ハ輕罪ト認ルトキハ其旨ヲ申立テ其犯者ニ罰金ヲ言渡ス可キヲ求ム可シ（第五十三條）

（申立云々）「コード」公告ノ時ニ於ル現行ノ刑法ニ從ヘハ檢官ハ其發見シタル註誤罪ヲ初告裁判所ノ裁判官ニ申立ツ可キモノタリ今ヤ然ラス重罪及ヒ輕罪

共ニ之ヲ申立ルヿナク自ラ之ヲ訴フ可シ故ニ外ヨリ告ル所ノ申立モ亦之ヲ受ケサルヲ得ス（治罪法第二十二條）

〔第二百五十九〕 爰ニ又左ノ件ニ注意センヿヲ要ス

檢官ハ怠慢又ハ贋造ニ因テ刑セラル可キ身分証書ノ官吏ニ對シ法律ニ明記セラレタル刑ヲ求ムルヲ任トスレモ其不規則ニ記サレタル証書又ハ變更セラレタル証書ノ改正ヲ求ムル爲メノ權ヲ有セス而メ其改正ヲ訴フルノ權ハ獨リ該證書ノ管スル本人ニ屬ス可シ故ニ檢官ハ證書ノ不規則若クハ變更セラレタル者ニ會スルモ敢テ其改正ヲ要ムルヲ得ス

又身分證書ノ官吏ハ職務ノ當然ナリトシ其改正ヲ行フヲ得スシテ證書ノ管スル本人ノ請願ニ因リ其裁判言渡ヲ得ルニ非レハ之ヲ行フ可ラサルモノトス

凡ソ此裁判言渡ハ諸般ノ場合ニ於テ之ヲ控訴スルヿヲ得ヘシ但シ常則ニ從ヘハ銀料ノ損益ニ關スル裁判言渡ハ其訴訟ノ輕重ニ因テ控訴ヲ聽ルスト否トノ別アリト雖モ此ニ記スル物件ニ於テハ此區別ヲ爲スヿヲ得ス蓋シ人ノ分限ニ至テハ固ヨリ價額ヲ有セサルモノタルニ由ル是レ第五十四條ノ規則ヲ

設クル所以ナリ該條ニ曰「何レノ場合ニ於テモ初告裁判所ニ於テ身分証書ニ管スル諸件ヲ審判シタル時ハ本人等其裁判言渡ヲ控訴スルヿヲ得ヘシ」ト

○第七節　簿冊ヲ公明ニスル事及ヒ簿冊ヲ眞正ト爲ス事（第四十五條）

〔第二百六十〕凡ソ公証書ハ其本人等私己ノ事項ニノミ關シ決シテ公明ニ爲ス可カラサル者タレハ概シテ其本人ニ限リ其報告及ヒ謄寫ヲ得ンヿヲ要ムルノ權アリトス（共和政第九年「ウヴンドー」ノ十五日ノ法律第二十三條）身分証書ハ之ト相異ナル所アリ即チ何人ヲ論セス己レノ分限

ヲ隱匿スルトモ其身ニ取リ毫モ正當ノ利益アルモノニ非サレモ他人ニ在テハ然ラス何事ニ拘ラス其取引ヲ爲サントセハ先ツ其本人ノ分限ヲ知ルヲ以テ大ニ利益アル可キモノタリ故ニ其分限ヲ証スル所ノ簿册ハ之ヲ公明ニシ且ツ衆人ノ縱覽ヲ許スヲ要ス是レ簿册ノ管守者即チ身分証書ノ官吏又ハ初告裁判所ノ書記官ニ對シテ何人ニテモ其報告及ヒ抄出書ヲ得ンヿヲ求ムルノ權理アル所以ナリ但シ身分証書ノ官吏並ニ書記官ノ掌記タル者ハ身分証書ノ官吏若クハ書記官ノ代理ヲナスヲ得ス故ニ掌

記ノ交與シタル抄出書ハ總テ其効アル可ラス

〔第二百六十二〕 身分証書ノ抄出書トハ人ノ思考スルカ如ク本書ノ略寫ニ非ス精密ニ本書ヲ摸寫シタルモノナリ而シテ之ヲ抄出書ト名クル所以ハ此レ簿册ニ記入シタル身分証書ノ中其一証書ノ謄寫タルニヨリ該簿册ノ全部ノ寫ニ對比スレハ單ニ抄出ノ者タルニ過キサルヲ以テナリ

身分証書ノ簿册ハ公正ノ証書ノ如ク贋造ノ訴アル迄ハ之ヲ眞正ノ者ト爲ス可シ

(眞正ノ者ト爲ス云々)詳ニ之ヲ言ヘハ事實ニ適シタ

ル者ト見做スヲ云フ

(贋造ノ訴アル迄云々)詳カニ之ヲ言ヘハ其證書ヲ引證シテ排擊セラレタル者カ法律上贋造ノ訴ト名クル特別ノ訴訟方ニ依リテ其贋造タルノ証ヲ立テサル間ト云フノ意ナリ訴訟法第二百十四條以下及ヒ第千三百十九條註釋ヲ觀ヨ

但シ此訴訟ハ之ヲ行フ者ニ取リ甚タ危害アル可キモノトス他ナシ若シ其訴訟ニ勝タサレハ三百フランク以上ノ罰金ニ處セラルヽノミナラス之カ爲メ損害ヲ加ヘタル時ハ其償金ヲ拂ハサルヲ得サレハ

訴訟法第二百四十六條

故ニ身分証書ハ總テ之ヲ眞正ノ者ト看做ス可シ而シテ其証書ニ就テ妨阻ヲ被リシ者若シ之ヲ排斥セントスル時ハ其之ヲ引証スル者ニ對シ其眞正タルヿヲ抗拒スルカ爲メ唯其證書ノ贋造タルヲ辭柄トシ以テ足ル可キニ非スシテ其贋造タル確証ヲ擧ケサル可ラス但シ之ヲ行ハントスル者ハ通常ノ方法ニ於テスルヿヲ許サス殊ニ危ク且ツ煩雜ナル特格ノ方法即チ贋造ノ訴訟ニ由ラサルヲ得サルナリ

〔第二百六十二〕 身分證書ヲ眞正トスル推測即チ贋造ノ訴ニ由ルニ非レハ取消ス能ハサル所ノ推測ハ其

證書ニ登記シタル諸般ノ事項ニ之ヲ推及スルヲ得スシテ個々ニ其區別ヲ爲サヽル可ラス但シ此區別ハ法律ニ明示シタルモノニ非サレヒ其事項ノ種質ニ因リ自然ニ生シ來ル所ノ者タリ左ノ如シ

第一　身分証書ノ官吏ノ現ニ檢視シ且ツ聽キタリト証スル所ノ事項ハ贋造ノ訴アルマテ眞正ノ者ト看做サル可シ

出席人ノ陳述ノミニ據テ身分證書ノ官吏ノ證セシ事項モ亦眞正ノ者ト看做サルレヒ若シ之ヲ排斥セントスル者ハ敢テ贋造ノ訴ニ由ルヲ要セス通常ノ

方法ヲ以テ之ヲ行フヿヲ得ヘシ

是故ニ身分證書ノ官吏ノ保證ハ陳述人ノ保證ニ比スレハ特ニ眞正ノ力ヲ有スルモノタリ抑此差異ハ民生官吏ト平人トノ間ニ自ラ存スヘキ所ノ差異ニ淵源ス甲ハ民生官吏大ニ信用セラル可キモノトス此レ官府ノ撰擢ヲ得タル者ナレハ其品行ノ正シカル可キハ固ヨリ論ナク又一ニハ若シ詐僞ヲ行フ時ハ重刑無期ノ徒刑ニ處セラルヽカ故ニ其廉直ナルヿヲモ期ス可キニ足ルヲ以テナリ乙平人ハ則然ラス凡ソ身分證書ノ陳述人タル可キ職ハ何人ニ限ラス之ヲ行ヒ得

ヘキモノタレハ其品行ヲ證スル爲メ特殊ノ狀況アルニ非ス又其廉直ニ於ルモ身分證書ノ官吏ノ如ク嚴ニ擔保セラルヽモノニ非ス其故ハ假令僞リヲ陳フルトモ到底禁錮ノ刑ヲ受クルニ過キサレハナリ

刑法第百四十五條、第三百四十五條及ヒ第三百六十三條

〔第二百六十三〕第二　法律ニ於テ禁スルカ又ハ証書ノ趣旨ニ非ルヲ以テ到底爲ス可ラサル所ノ事項ノ登記ハ更ニ眞正ノ力ヲ有セサルモノトス

例ヘハ出産証書ニ於テハ左ノ諸件ヲ登記ス

第一　某ノ日時ニ某ノ子ヲ身分証書ノ官吏ニ示シタル事及ヒ其子ノ男又ハ女タル事

是等ノ事項ハ現ニ身分証書ノ官吏ノ面前ニ顯レシ者ナレハ身分証書ノ官吏ハ之ヲ檢視シタルヿヲ確証ス故ニ贋造ノ訴アルマテ其陳述ヲ眞正ノ者ト信認ス可シ

第二　子ヲ示シタル産婆ノ某ノ日時ニ其子ノ生レタルヿヲ陳述セシ事

身分證書ノ官吏ハ此陳述ヲ聽キタルヿヲ證明シ而ノ贋造ノ訴アル迄ハ之ヲ眞正ノ者ト爲スト雖モ其陳述ニ含有スル所ノ事實即チ出産ノ日時ハ果シテ

眞正ノ者タル乎畢竟身分證書ノ官吏ハ親ヲ之ヲ檢視シタルニ非ス唯其陳述ヲ受ケ以テ之ヲ証スルニ過キサルナリ故ニ我輩若シ陳述人(産婆)ノ僞タルヲ主張セントスルキハ産婆ニ對シ之ヲ陳フルモノニシテ其排斥セントスルモノハ陳述人即チ平人ノ立ル所ノ証據ナリ而ノ身分証書ノ官吏ノ保証ニ至リテハ固ヨリ疑フ可キニ非ス反テ之ヲ信スル者ナリトス何トナレハ其証書ニ記入シタル日時ノ事實ニ適セサル所アルハ産婆ノ陳述ニ由レルヲ以テナリ但シ此証據モ亦之ヲ眞正ノ者ト看做ス可ケレモ其虚妄タルヿヲ証スル者ハ敢テ贋造ノ訴ニ由ルヿヲ要セラルヘカラストス

第三　其子ハ曰ニ婚姻セシ婦ノ生ミタル子ナレモ本夫ノ子ニ非ス他ノ某ノ子トシテ示サレタル事

陳述人ハ此ノ如キ陳述ヲ爲ス可ラサル者タリ又身分証書ノ官吏モ敢テ之ヲ受ク可ラス但シ法律ニ於テハ毫モ之ニ關スルヿナク恰モ其記入ノ無キカ如ク看做スヘシ

〔第二百六十四〕　証書ノ抄出書ハ其簿册ト比シク贋造

ノ訴アルマテ亦之ヲ眞正ノ者ト爲ス可キ乎茲ニ其法文ヲ示サン曰身分證書ノ抄出書ハ初告裁判所長又ハ代理ノ裁判官ヨリ其簿冊ニ同一ナリトシテ交與セラレタルモノハ贋造ノ訴アルマテ之ヲ眞正ノ者ト爲ス可シト

(簿冊ニ同一ナリトシテ交與セラレタル云々)此數語ヲ引證シ以テ之ヲ論辨スル者アリ曰凡ソ抄出書ハ其簿冊ト同一タルヿヲ檢視シ且ツ認了セラレタル者ニ非レハ贋造ノ訴アルマテ之ヲ眞正ノ者ト爲ス可ラス之ヲ再言スレハ其抄出書ヲ携帶スル者若シ其簿冊ト同一ナラサルノ異論ヲ受ルキハ則チ其簿冊ヲ視サヽルヲ得サルナリ」ト故ニ此說ニ從ヘハ抄出書ハ更ニ眞正ノ力ヲ有タサルモノニシテ到底無益ニ屬スルカ如シ

此說ニ左祖スル者ハ方今已ニ其數ヲ減セリ而ソ一般ニ之カ解ヲ下シテ簿冊ニ同一ナリトシテ交與セラレタル云々ノ語ハ抄出書ヲ交與スル所ノ管守者ニ由テ簿冊ト同一ナリト證明セラレタル云々ノ數語ニ同義ナリトセリ而ソ此管守者ノ證明ハ現ニ身分證書ノ官吏ノ爲シタル者タレハ簿冊ニ記載シタ

ル事項ノ如ク同般ノ信用ヲ屬ス可キ者ナリ故ニ贋造ノ訴アルマテ之ヲ眞正ノ者ト爲サヽル可ラス且ツ法律ニ於テ凡ソ抄出書ハ身分證書ノ官吏親ラ之ヲ交與シ而メ其手署ハ初告裁判所長ニ由テ確認セラル可キヲ要セシ所以ハ敢テ簿册ニ關スルヿナク其抄出書ヲシテ獨リ自ラ信用アラシメンカ爲メニセシニ非ルヲ得ス

此說ニ據ルニ簿册ト同一ナリト陳述セラレタル抄出書ハ全ク其同一ノモノト看做サヽルカ故ニ之ヲ示ス所ノ者ハ敢テ其同一タルノ證ヲ立テ且ツ之カ

爲メ特ニ簿册ヲ視スニ及ハス而メ其之ヲ排斥セントスル者ハ反テ其同一タラサルノ證ヲ立テサルヲ得サルナリ但シ此證ハ或ハ之ニ反スル他ノ抄出書或ハ本人等ノ面前ニ於テセル調書ヲ記ス可キ所ノ「コムビュルソ―ル」證書ノ謄寫ヲ交與セシムル言渡ノ方法ニ依テ之ヲ立ツルヿヲ得又裁判所ニ在テハ必ス爲サヽル可ラサルニ非サレモ運搬ニ不便ナキ時ハ右簿册ノ呈出ヲ命スルヲ得ヘシ

公證書ハ全ク之ト同シカラスシテ公證人ヨリ交與セラレタル謄寫ノ如キハ本書ト同一タルニ非レハ

其眞正ノ力ヲ有タサルモノナリ故ニ本書ノ現存スル以上ハ常ニ其點檢ヲ要ムルヲ得ヘシ（第千三百三十四條注釋ヲ觀ミヨ）

身分證書ノ謄寫ト他ノ公正證書ノ謄寫トニ斯ノ如ク差別アル所以ノモノハ他ナシ即チ通常ノ公正證書ハ零紙ニ之ヲ記スルヲ以テ其運搬モ太タ容易ニシテ且ツ危害モ少ナキモノタリ何トナレハ若シ之ヲ失ヒタル時ハ其代ヲ命スル所ノ裁判言渡ニ由テ本人等ノ面前又ハ前面ニ非スト雖モ之ヲ召喚シ猶ホ出席セサル上ニテ公證人ヲシテ之ニ代ル所ノモノヲ登記セシムルヲ得レハナリ身分證書ハ然ラス簿册ニ登記スルモノタレハ若シ之ヲ本年内ニ他ニ運搬スルトキハ現ニ其用便ヲ欠クハ勿論且ツ諸般ノ場合ニ於テ身分證書ノ官吏ハ其之ニ記入シタル證書ノ謄寫ヲ要ムル者ニ對シ之ヲ交與スルヿ能ハサルニ至ル可シ

〔第二百六十五〕 概スルニ左ノ諸件ニ適シタル抄出書ハ贋造ノ訴アルマテ總テ之ヲ眞正ノ者トス可シ

第一 法ニ適シタル簿册ノ管守者ヨリ交與セラレタル抄出書

第二　簿冊ノ管守者ニ由テ簿冊ニ同一ナリト證明セラレタル抄出書

第三　初告裁判所長ニ由テ擔保セラレタル抄出書

擔保トハ初告裁判所長カ證書ノ末部ニ表シタル認定ニシテ證書ニ在ル所ノ手署ハ正シク其謄寫ヲ交與セル者ノ手署ニ係リ且此者ハ之ヲ交與ス可キ權理アル職任ヲ有セシ者ナリト之ヲ保證スルヲ云フ」或ル醫書家ノ考案ニ據ルニ其擔保ヲ爲ス可キ初告裁判所長在務ノ裁判所ニ其抄出書ヲ呈スル時ハ敢テ之ヲ要セサルモノナリ」ト但シ千八百六十一年五月二日ノ法律ヲ參考ス可シ

○第八節　身分証書ノ簿冊ノ未タ在サルカ若クハ失ヒタル時之ヲ補フ方法（第四十六條）

〔第二百六十六〕　凡ソ人ノ分限ハ本主義ニ於テハ証據人又ハ私証書ヲ以テ之ヲ証スル能ハサルモノタリ故ニ出産、婚姻及ヒ死去ハ當該ノ民生官吏ニ由テ公ノ簿冊ニ記入セラレタル証書ニ非レハ之ヲ証スルヲ得サルヲ以テ常則トス

然レモ非常ノ事故アリテ其分限ノ法ニ適シタル証
據ヲ得ルヿ能ハサリシ者又ハ一旦之ヲ得タル後不
虞ノ事若クハ己ムヲ得サルノ件ニ因テ之ヲ失ヒシ
者ノ爲メ更ニ例外ノ規則ヲ設ケサルヘカラス抑法
律ハ到底爲シ難キノ事件ヲ强テ要スルヿ能ハサル
モノタリ是レ第四十六條ニ於テ其規則ヲ定示シタ
ル所以ナリ曰若シ其簿册ノ未タ在ラサルカ又ハ亡
失シタル時ハ証據人ヲ以テ其旨ヲ証スルヿヲ得ヘ
シ而メ又此場合ニ於テハ亡父母ノ記シタル簿册及
ヒ書面若クハ証人ヲ以テ出産、婚姻、死去ヲ証スルヲ

得ヘシ」ト
故ニ或ル場合ニ於テハ出産、婚姻、死去ハ簿册ノ外他
ノ方法ヲ以テ其証ヲ立ルヲ得ヘシ但シ如何ナル場
合ニ於テ此例外ノ証據ヲ許ス可キヤ爰ニ之ヲ確定
セスンハアラス即チ左ノ如シ
〔第二百六十七〕(一)簿册ノ未タ在ラサル時
斯ノ如キハ太タ罕有ノ事ナリトス然レモ或ル「コム
ミュンス」ニ於テ瘟病ノ流行、敵國ノ攻擊又ハ政治上ノ
動搖等ニ因テ一時簿册ヲ保存シ能ハサルヿナキニ
非ス此時ニ方リ其分限ノ淵源スル某件ノ發生シタ

ル者ハ第四十六條ノ恩典ヲ請願スルヿヲ得ヘシ

簿冊ノ中廢ハ到底之ヲ存セサル者ニ同シ何トナレハ其中廢ノ時間ニ於テ發生シタル件項ニ就テハ其之ヲ存セサルト比シキニ因テナリ又不規則ニ保存シタル簿冊ノ如キモ猶ホ其存セサル者ト同一視スヘシ畢竟法律ハ其定規ニ背キタル者ハ決シテ聽スヘカラサルモノタリ

〔第二百六十八〕(三)簿冊ヲ亡失セルカ又ハ毀損シタル時

簿冊ノ全部ヲ失フモ又ハ其一部ヲ失フモ敢テ關スヘキモノナラス故ニ簿冊ヨリ拔取シタル紙葉ニ於テ身分證書ヲ登記セラレタル者證據人ヲ以テ其證ヲ立ンヿヲ請願スル時ハ裁判所ニ於テ其訟ヲ聽カサルヲ得サルナリ千八百十七年四月十三日ノ法律第五條

通常ノ方法ニ依ラス他ノ方法ヲ以テ婚姻又ハ出産ノ證ヲ立ンヿヲ請願スル者ハ預メ例外ノ證據ヲ聽スヘキ事實即チ簿冊ノ未タ在ラサル乎若クハ失ヒタル乎ノ證ヲ立サルヲ得ス

此證ハ證人又ハ書面ヲ以テ立ルヿヲ得就中身分証書ノ官吏及ヒ裁判所ノ書記官ノ簿冊ノ存否ヲ調査

シタル後某ノ時ニ方テハ全ク之ヲ存有セサリシヿヲ證スル爲メノ陳述又ハ調書ヲ以テス可シ

已ニ此証ヲ立タル後第二ノ證據即チ出産、婚姻、死去ノ證ヲ立ルヲ聽ス但シ何等ノ方法ニ依テ之ヲ証スルカ今茲ニ法律ノ條規ヲ示サン曰簿册ノ未タ在ラサル乎若クハ失ヒタルノ証ヲ立タル時ハ亡父母ノ記シタル簿册及ヒ書面又ハ証人ヲ以テ出産、婚姻、死去ヲ証スルヿヲ得ヘシ」ト

得ヘシノ語ハ稍裁判所ニ特權ヲ與ヘタルニ似タリ

但シ此ノ權ヲ組成スル所以ノモノハ次ニ之ヲ開陳

セン

(亡父母ノ記シタル簿册及ヒ書面又ハ証人云々)必シモ此二證據ノ兩全スルヲ要セス其一証ヲ以テ已ニ足ル可キモノトス

二証據ノ兩全ヲ要セサルト同シク裁判所ニ於テモ亦其一証ヲ以テ強テ足レリトスルニ非ス故ニ其援引スル所ノ証據ヲ若シ裁判所ニ於テ或ハ充分ナリトセサルキハ之ヲ補ハンカ爲メ更ニ第二ノ証據ヲ要スルヲ得ヘシ且ツ二証據ノ兩全スル者ト雖モ猶ホ不充分ト認メタルキハ亦之ヲ却クルヲ得ヘシ此

レ法律ハ裁判所ニ稍特權ヲ附與シ而シテ其証據ノ多少ニ關セス能ク之ヲ熟慮シ以テ其決ヲ取ラシメンヿヲ欲スルカ故ナリ

(亡父母ノ記シタル簿册及ヒ書面云々)此語意ハ全ク此ニ限レルモノタル歟將タ其大意ヲ示シタルニ過キスシテ左ノ如キ証據モ亦之ヲ聽ス可キ歟

第一　生存スル父母ノ記セシ簿册及ヒ書面

第二　他人ノ記シタル簿册及ヒ書面

法律ニ於テハ亡父母ノ記シタル簿册及ヒ書面ニ非レハ之ヲ証據トシテ聽用セサルモノナル乎左ノ規則ニ由リ以テ之ヲ決スルヲ得ヘシ

(證據人云々)裁判所ハ事態ノ如何ヲ問ハス諸般ノ場合ニ際シ此証據ヲ許サヽルヲ得サル乎我輩ハ其然ラサルヲ信スルナリ現ニ法律ニ於テ出産、婚姻及ヒ死去ハ當ニ證人ヲ以テ其證ヲ立ツヘシト云ハスシテ之ヲ立ルヲ得ヘシト云ヘリ故ニ法律ハ必シモ之ヲ要求シタルニ非ス唯之ヲ准許シタルニ過キサルノミ

是故ニ裁判所ハ其思慮ニ從ヒ證據人ノ証據カ若シ願ヒ人ノ申立ヲ至當ト爲スニ足ル可キ書面ニ於ル

証據ノ端緒アルニ非サレハ之ヲ許サヽルヿヲ得ヘク又ハ一ノ要件ヲモ求メスシテ直チニ之ヲ許スヲ得ヘシ但シ裁判所ニ委附スル所ノ權ニ由テ更ニ又他ノ權ヲ生シタリ即チ証據人ヲ以テ証ヲ立ルヲ得ヘキ諸般ノ事項ハ簡單ナル推測即チ裁判官ノ思量ニ任シタル事故アリテ詳明符合セシ所ノ情況ニ隨ヒ之ヲ証スルヲ得ヘキ是ナリ第千三百五十三條故ニ裁判官ハ簡單ナル推測ヲ以テ亡父母又ハ生存スル父母或ハ親戚若クハ他人ノ書面ニ包藏セル所ノ事項ヲ以テ充分ナル証據トシ之ヲ聽スヿヲ得ヘシ且ツ

裁判所ニ於テハ固ヨリ是等ノ者ヲ証人トシテ吟味スルヲ得ヘキニ因リ其記シタル所ノ簿冊及ヒ書面ヲ參勘シ而ノ書面ノ証據ト証人ノ証據トヲ互ニ對比スルノ權ナシト爲スノ理アラストス抑又第四十六條ノ法文ニ唯死去セン父母ノ書面トノミ掲載シタル所以ハ之ヲ他ノ書面ニ比スレハ大ニ眞正ノ力ヲ有テルカ爲メノミ蓋シ其本人已ニ死亡シタレハ該事件ニ就テ要スル所ヨリ頗ニ之ヲ作成シタルノ疑ヲ容ルヘキモノニ非サルヲ以テナリ且ツ其レ法律ニ於テハ該書面ヲ特示シ他ノ証據ハ一切之ヲ拒

絶シタルニ非ス畢竟死去セシ父母ノ書面ハ裁判官ノ最モ參考セサル可ラサルモノナリト謂フニ過キスシテ特ニ其大意ヲ示シ敢テ他ノ方法ヲ禁シタル

ニ非サルナリ

〔第二百六十九〕婚姻及ヒ死去ハ其民事上ノ諸効用ト齊シク獨リ証人ヲ以テ其証ヲ立ルヲ得ヘシ之ヲ再言スレハ書面ノ証據ノ端緒アルヲ要セス唯証人ノ証據立ヲ以テ全ク簿册ヲ補フヘキモノトス此件ニ就テハ衆説ニ異同アルヿナシ

出産ニ至リテハ之ト相同シカラス其之ヲ證スル爲

メノ證書ニ必ス左ノ諸件ヲ包有ス可キモノタリ

第一　出産ノ日、時、場所及ヒ其子ニ命シタル名

第二　嫡出ノ父母ノ名又陳述人ナシテ陳述セシメタル時ハ私生ノ父母ノ名（第五十七條注釋ヲ見ヨ）

故ニ出産証書ハ左ノ件ヲ證スルモノトス

第一　其子ノ年齡及ヒ其別人タラサル事

第二　血統即チ子タル事

若シ其簿册ノ存セサル乎或ハ毀損シタル時ハ証人ノ証據ヲ以テ出産ノ日時及ヒ其子ノ名即チ年齡ト其別人タラサル事トヲ証スルニ足ル可シト雖モ其

子タルヿヲ証スルニ亦此証據ヲ以テ足レリト爲ス乎之ヲ詳言スレハ曰ニ婚セシ某父母ノ所生ノ子タル事又ハ出産証書若クハ縛册ニ記入シタル後ノ証書ニ因リテ某ノ父母ノ其子ヲ認メタル事ヲ証人ヲ以テ其証ヲ立ント請願スル時ハ第六十二條第三百三十四條假令之ニ關スル書面ニ於ル証據ノ端緒ナク又其辭柄ヲ眞正ト爲スニ足ル可キ徵効ナシト雖モ猶ホ之ヲ聽ス可キ乎此問題ニ就テハ諸説一定セス即チ左ノ如シ

〔第二百七十〕〔第一説〕出産ト子タル事トハ其間微密ノ關係アレモ事實全ク相異ナレルモノナリトス

甲出産ハ第四十六條ニ定メタル場合ニ際シテハ獨リ証人ノ証據ヲ以テ之ヲ証スルヲ得ヘシト雖モ乙子タルハ敢テ該條ノ管ス可キ者ニ非ス他ナシ該條ニ於テハ啻ニ出産ノ証據ヲ示定シタルニ過サルカ故ナリ而メ嫡出若クハ私生ノ子タル事ノ証據ハ第三百二十三條第三百四十條及ヒ第三百四十一條ニ於テ規定セラル可キモノタリ然ルニ此等諸條ノ法文ニ從フキハ嫡出ノ子タル事ハ願ヒ人ノ利便ノ爲メ書面ニ於ル其證ノ端緒アル乎又ハ其辭柄ヲ眞正ト爲スニ足ル可キ詳明ナル重大ノ徵効アルニ非レハ證

人ヲ以テ之ヲ證スルヿヲ得ス（第三百三十三條）又私生ノ子他ヲ指シテ我母ナリト訴フル時ハ書面ニ於ル証據ノ端緒アルニ非レハ亦証人ノ証據立ヲ聽サレス（第三百四十一條）而ノ私生ノ父タル事ニ至リテハ決シテ証人ヲ以テ之ヲ証スルヲ得サルナリ（第三百四十條）

右ノ諸規則ハ第四十六條ノ二個ノ場合ニ於ルモ亦之ヲ適用ス可シ蓋シ法律ハ第百九十四條ニ於テ婚姻ニ關シ該條ノ格外タルヲ表シタレモ此所ニ於テハ更ニ之ヲ示サヽルヲ以テナリ

〔第二百七十一〕〔第二說〕若シ簿冊ノ存セサル乎又ハ之

ヲ失ヒタル時ハ書面ニ於ル其證ノ端緒アルト否トニ關セス獨リ證人ノ證據ヲ以テ啻ニ出産ノ事ノミナラス嫡出若クハ私生ノ子タル事ヲモ亦之ヲ証スルヲ得ヘシ現ニ第四十六條ノ文面ニ據レハ業ニ已ニ明瞭タル所アリ即チ該條ニ於テハ出産ニ關スル或ル情況ノミナラス母ノ分娩及ヒ其子ノ別人タヲサル事之ヲ再言スレハ其子タル事ニ至テモ亦証人ヲ以テ之ヲ証スルヿヲ許セリ且ツ該條ノ主旨ハ其本人等ノ過失ニアラスシテ應ニ害セラルヘカラサル所ノ不慮ノ事件ニ因リテ法ニ適シタル通常ノ証

據身分証書ノ簿冊ヲ示スヿ能ハサル者ニ証人ノ証據ヲ以テ之ヲ補ハシムルニ外ナラスシテ之ヲ要スルニ其本人等ヲシテ恰モ簿冊ヲ示シタル者ト同一樣ノ地位ニ居ラシムルヲ許シタルモノナリ此ニ由テ之ヲ觀ルニ簿冊ノ存スル時ハ出産ト子タル事トヲ同時ニ証スルヲ得ヘシトセハ若シ其存セサル乎又ハ失亡シタル時ハ証人ヲ以テ之ヲ補フヿヲ得ヘキノミナラス是レ實ニ通則ノ適用ト謂フヘクシテ猶ホ彼ノ債主カ不慮ノ事ニ由リ其証書ヲ失ヒタル時ハ其訴訟ノ輕重ヲ論セス証人ノ証據ヲ聽ス可キ者ト異

ナラス即チ第千三百四十八條ヲ説明スルニ當テ詳ニ之ヲ示定セン又第四十六條ハ第三百二十三條、第三百四十條及ヒ第三百四十一條ノ旨趣ニ於ルモノトハ全ク異ナル所ノ者ヲ規定シタルナリ即チ甲第四十六條ニ在テ願ヒ人ノ出産証書ヲ示サヽル所以ハ其簿冊ノ存セサル乎若クハ之ヲ失ヒシニ因レリ故ニ其辭柄ハ眞正ノ者タルヲ以テ証人ニ由テ其証ノ端緒ヲ固定スルヲ許スモ敢テ危フキヿアル可ラス乙第三百二十三條、第三百四十條、第三百四十一條ニ在テハ然ラス現ニ簿冊ヲ存スル者タレハ願ヒ人ハ則チ之ヲ指示スルヿヲ得

ヘシ故ニ法ニ適シタル通常ノ証據ヲ以テ其辭柄ヲ証セサルノ縁由ヲ了解スル能ハサレハ法律ニ於テ稍之ニ疑團ヲ置カサルヲ得ス是レ第三百二十三條及ヒ第三百四十一條ノ要件ト第三百四十條ノ禁止トヲ制設シタル所以ナリ

○第九節　外國ニ於テ登記セラレタル身分証書（第四十七條 第四十八條）

〔第二百七十二〕（第一）外國ニ於テ登記セラレタル佛蘭西人又ハ外國人ノ身分証書ハ其國ノ法式ニ循ヒ且ツ之カ爲メ設ケラレタル民生官吏ノ作成セシ者ニ限リ場所ハ証書ヲ定ムト云フ規則ニ從ヒ總テ之ヲ眞正ノ者トスヘシ（第八十一ヲ見ヨ）然レトモ唯其証書ニ眞正ノ力ヲ附スルノミニシテ其効ノ如キハ佛蘭西人ニ管スル者ハ固ヨリ佛蘭西ノ法律ニ定メタル能力ヲ得ヘキノ諸要件ニ屬セラル可シトス（第七十八及ヒ第八十一ヲ見ヨ）

（第二）外國ニ在ル佛蘭西人ノ身分証書ハ佛蘭西ノ法式ニ循ヒ我カ交際官吏若クハ領事官ニ由テ記セラレタル者ニ限リ總テ其効ヲ保ツ可シ

故ニ外國ニ住スル佛蘭西人ハ其身分ヲ證明セシムル爲メ二様ノ方法ヲ有テルモノトス即チ其意ニ隨

ヒ佛蘭西ノ法式ニ則リ之ヲ管理スル所ノ我カ交際官吏ニ稟請スル乎又ハ外國ノ法式ニ依リ之ヲ掌レル外國ノ民生官吏ニ稟請スルヲ得ヘシ

爰ニ又左ノ件ニ注意セン

外國ニ在ル我カ交際官吏ノ管轄ハ佛蘭西人ノ身分証ニ限レルヲ以テ獨リ外國人ニ管スル証書又其一人ハ佛蘭西人一人ハ外國人タル者ノ證書ニ於ル登記ヲナスヿヲ得ス故ニ佛蘭西人若シ外國ニ在テ佛蘭西ノ婦女ト婚姻ヲ行フ時ハ外國ノ法式ニ依リ其民生官吏ノ面前ニ於テ之ヲ行フ乎或ハ佛蘭西ノ法式

ニ則リ我カ交際官吏ノ面前ニ於テ之ヲ行フヿヲ得ヘシ而メ又外國ノ婦女ト婚姻ヲ行フ時ハ必ス其民生官吏ノ面前ニ於テセサルヲ得サルナリ是レ其本人等ハ專ラ外國民生官吏ノ管轄ニ屬ス可キ者タルニ因ル詳ニ之ヲ言ヘハ外國ノ民生官吏ハ其國ノ法律ニ循ヒ該婦女ニ對シテ至當ノ管轄權ヲ有シ又佛蘭西人ニ對シテハ場所ハ證書ヲ定ムト云フ規則ニ由リ同シク至當ノ管轄權ヲ有テルモノナリ之ニ反シテ我カ交際官吏ハ其本人雙方ノ中外國人ニ對シテハ更ニ管轄權ヲ有タサル者トス

前ニ叙ル所ノ諸規則ハ一般ニ管渉スルモノニシテ身分證書ノ通則ナリトス故ニ各證書ノ上ニ之ヲ適用スルヲ得ヘシ但シ各證書ニ於テ又特殊ノ規則ヲ具フ此レ第二章、第三章、第四章及ヒ第五章ノ趣意ヲ組成スルモノナリ

○第二章　出產證書（從第五十五條至第五十七條）

〔第二百七十三〕(一)出產ヲ陳述スル義務

身分證書ノ官吏ハ何レノ場合ニ於ルモ職務ノ當然ニテ出產證書ヲ記スルヲ得ス其權理及ヒ義務ハ法律ノ定規ニ循リ該官吏ニ爲サヽル可ラサル所ノ陳述ヲ其簿册ニ記入スルヲ以テ限トス（第二十四ヲ見ヨ）

〔第二百七十四〕(二)陳述ヲ爲サヽル可ラサル期限

出產ノ陳述ハ其分娩ノ日ヨリ三日內ニ爲サヽルヲ得ス但シ分娩當日ハ之ヲ算入スヘカラス

法律ニ於テ出產ハ特ニ之ヲ少期限內ニ陳述セシメンヿヲ欲シタリ是レ其事實ヲ變更シ爲メニ利益スル所ノ者ヲシテ其時間ヲ偷マシメサランカ爲メナリ且ツ其陳述人ニ於ルモ未タ時日ヲ經サルニ際シ之ヲ陳述スルヿハ其出產ノ日時ヲ最モ明瞭ニ認定シ得ヘキヲ思考セシニ因ル

〔第二百七十五〕身分證書ノ官吏ハ此期限ノ盡キタル後ニ於テセル陳述ヲ受ケ之ヲ其簿册ニ登記スルヿヲ得ス現ニ第九十九條ヲ說明スル時ニ當リ身分証書ノ更改ハ撿官ノ要求ニ從ヒ本人等ノ面前又ハ面前ニ非サルモ之ヲ召呼シ猶ホ出席セサル上ニテ爲シタル裁判言渡ヲ以テセサレハ之ヲ行フヿ能ハサルノ緣由ヲ示定セン乃チ其更改ニ於ルモ尙且ツ然リ況ヤ其期ニ後レタル陳述ノ登記ニ至テハ最モ以テ然ラサルヲ得サルナリ又共和政十二年「プリュメール」十二日ニ於ル參議院ノ助言ニ云ク「若シ裁判所ヲ

經由セスシテ定期ニ後レタル陳述ヲ聽スキハ蓋シ佛蘭西ノ親族中ニ外國人ヲ引入ルヽヲ得ヘシ斯ノ如キハ遂ニ不測ノ弊害ヲ讓ス可キ原由ナリ」ト

〔第二百七十六〕(三)出產ノ陳述ヲ受ク可キ者

凡ソ出產ハ其分娩ノ地ニ於ル身分証書ノ官吏ニ之ヲ陳述ス可シ故ニ若シ住地外ニ在テ分娩シタル時ハ其出產証書ハ住地ノ官吏ニ依ラス分娩地ノ官吏ニ依テ登記セラル可キモノトス

〔第二百七十七〕(四)出產陳述ノ義務ニ於ル刑典

千七百九十二年十一月二十日及ヒ十二月十九日ノ

法律ニ於テハ凡ソ出産ヲ陳述ス可キ義務アリテ之ヲ陳述セサル者ハ禁錮ノ刑ニ處セラル可キモノトセリ此刑ノ目的ハ單ヘニ黨心ヲ固執シ或ハ宗教ノ偏信ニ因リテ多年來獨リ僧侶ニ登記セシメタル証書ヲ更ニ民生官吏ノ手ニ委ヌルヿヲ肯セサルカ如キ者ナシテ專ラ新法ヲ遵奉セシメントスルニ在ルナリ

「コード」編制ノ時ニ當テハ已ニ之ヲ憂トセス他ナシ身分証書ノ保存ニ關シ夫ノ大革命ニ因テ改正シタル方法ハ世人普ク之ヲ收用シ且ツ其利便ヲ熟知シ

タルヨリ陳述ヲ爲ス可キ義務アリテ之ヲ行ハサル者ノ受クヘキ昔日ノ刑ハ自ヲ無益ニ屬スルカ如シ故ニ之ヲ廢止セリト雖モ茲ニ其刑ノ設ナキカ爲メ爾后往々此義務ヲ盡サヽル者アルニ至レリ是レ他ナシ當時佛蘭西ハ歐州各國ニ對シ戰鬪熄ム時ナク會男子ヲ產ミタル者ハ輒チ將ニ募兵ニ當ラントスルノ恐アルニ因テナリ是ニ於テカ刑法ノ編者ハ出產ニ臨會シテ或ハ其義務ヲ怠リ法律上ノ定期內ニ其陳述ヲ爲サヽル者ニ對スル律ヲ設ケ以テ此弊ヲ制歇セリ但シ此刑ハ六日以外六月以內ノ禁錮及ヒ

十六〔フランク〕以上三百〔フランク〕以下ノ罰金ヲ以テ成ル者タリ（刑法第三百四十六條）

〔第二百七十八〕（五）出産ヲ陳述スヘキ義務アル者

此事ニ就テハ二様ノ場合ヲ區別セサルヲ得ス左ニ之ヲ示サン

第一　母ノ住所ニ於テ出産シタル時ハ其陳述ヲ爲ス可キ者左ノ如シ

其一　父○法律ニ於テハ單ニ父ト云ヒ夫ト云ハス蓋シ私生ノ子ハ出産前其父若シ之ヲ認メタルキハ父ヨリ其陳述ヲ爲サヽルヲ得サルニ因ル而メ又之ヲ認メサルキハ其陳述ヲナスニ及ハス畢竟父ハ其自認ヲ爲サヽルノ自由アル者タリ（第十三條注釋ヲ見ヨ）

其二　父不在ナル歟若クハ事故アル時又私生ノ子ニシテ父ノ之ヲ認メサル時ハ内科或ハ外料ノ〔ドクテル〕（醫院學士ノ級）産婆及ヒ出産ニ關シタル下等醫

其三　出産ニ臨會シタル者

〔第二百七十九〕第二　母ノ住所外ニテ出産シタル時ハ其家主ヨリ之ヲ陳述ス而メ父モ其所ニ在レハ

亦之ヲ陳述ス可シ若シ父及ヒ家主共ニ不在ナレハ産科醫若クハ出産ニ臨會シタル者ヨリ其陳述ヲナス可シ

〔第二百八十〕出産ヲ陳述セサル可ラサル義務ハ右ニ記列セシ所ノ者ニ對シ合同連串シテ命セラレタルニ非ス故ニ出産ニ臨會シテ之ヲ陳述セサル者ニ對シ設定セル刑法第三百四十六條ノ刑ハ此等ノ人ヲシテ一同ニ連坐セシムルモノナラス上ニ示シタル順序ニ從ヒ逐次ニ施行セラルヘシトス故ニ父及ヒ家主ハ出産ニ關セシ産科醫ニ先ナ産科醫ハ出産ニ

臨會シタル他ノ諸人ニ先ナテ處刑ヲ受ク可キモノナリトス

〔第二百八十一〕父及ヒ家主ハ其出産ニ臨會セサル時ト雖モ之ヲ陳述セザルヲ得ス但シ此際ノ義務ハ刑典ヲ以テ固定セラレタルモノニ非ス是レ刑法第三百四十六條ニ於テ出産ニ臨會シ其出産ヲ陳述セサル者ノミ其刑ヲ施ス可キモノト爲スニ由レリ但シ該條ニハ恐ラク缺文アルカ如シト雖モ之ヲ要スルニ刑事ハ律文外ニ超出スルヲ許サヽルモノナリ

〔第二百八十二〕(六)出産証書ヲ登記スヘキ時間及ヒ此

ニ臨會スヘキ人員○身分証書ノ官吏ニ子ヲ視ス事

出産証書ハ陳述人ト証人二員トノ面前ニ於テ其陳述ヲ受ケタル後直チニ之ヲ登記ス可シ然レモ身分証書ノ官吏ハ其子ノ初生タルト否ト男女又ハ生死ノ如何トヲ看査センカ爲メ其子ヲ視ス可キヿヲ預メ要求セサルヲ得ス而メ若シ此要件ヲ怠レル者ハ其陳述人ノ行フヿアル可キ僞計ニ依リ故意ニアラサル連累トセラル可シ例ヘハ一年前ニ出産セシ子ヲ昨日ノ出産トシ男子ヲ女子トシ死者ヲ生者トシテ誌スカ如キ是ナリ

凡ソ子ヲ視ス ハ身分証書ノ官吏ノ役場ニ於テスルヲ通規トス然レモ若シ其子ヲ移動シ其生命ニ危害アル可キ情況アルトキハ身分証書ノ官吏ハ其子ノ居所ニ到リテ之ヲ看査スヘシ而メ第五十六條ニ於テ命スル如ク直チニ其証書ヲ記センカ爲メ必ス簿册ヲ携ヘ行クヿヲ要ス

〔第二百八十三〕 凡ソ胎児ハ已ニ其權理ヲ得ルニ適スルモノナレモ（第七百二十五條及第九百六條ノ註釋ヲ見ヨ）尚ホ未必ノ條件ニ附セラレ即チ分娩ノ時生出シ且ツ健康ニシテ後

來生長シ能フ可キ歟ノ二要件ニ屬セラルヽ者トス故ニ其子ノ死出タルヤ否ヲ知ルハ最モ緊要ノ事ニシテ法律ニ於テハ身分証書ノ官吏ノ記セル証書ハ此件ノ決定ニ毫モ干觸ス可ラサルヲ欲シタリ是ヲ以テ産兒ノ死體ヲ視メサレタル身分証書ノ官吏ハ其死出タル事又ハ其出産後二三時間若クハ二三日間ヲ經テ死セシ事等ヲ証書ニ登記ス可ラス唯其死セシ子ヲ視メサレタルヿヲ証スルニ止ルノミ但シ此時ハ其出産証書ノ登記ヲナサス直チニ之ヲ死去証書ノ簿冊ニ記入ス可キナリ千八百〇六年七月四日ノ勅命

〔第二百八十四〕(七)出産証書ニ於テ記入ヲ要スル事項

○出産証書ニ記入セラル可キ人員

出産証書ニ於テハ左ノ諸件ヲ登記ス

第一　出産ノ日時

時刻ノ記入ヲ要スル所以ハ其母若シ孿兒ヲ産ミタル時孰レヲ以テ兄ト爲ス乎審ニ之ヲ言ヘハ孰レカ其初出タルヤヲ定メンカ爲メナリ且ツ丁年ハ日ヲ以テ算ス可ラス時ヲ以テ算ス可キノ説ヲ取ル者ニ在テハ特ニ緊要ノ事ナリトス但シ此説ハ種々ノ駁擊ヲ免レサルモノタリ〔第千二百六十七〕及ヒ〔第千二百六十九〕ヲ見ヨ

第二　分娩ノ場所

此登記ハ身分証書ノ官吏カ之ヲ其管轄内ニ於テ記セシヤ否ヲ知ラシムルカ爲メナリ又証書ニ其子ノ嫡母ト登記セラレタル者後日其母タルヲ肯セサル際シテハ最モ之ヲ必要トス此時該婦ハ其証書ニ載スル所ノ日限ニ當リ証書ニ記サレタル分娩ノ場所ニ在ラサリシヿヲ徵明シ以テ其証ヲ立ツルヲ得ヘシ

第三　男又ハ女タル事

此レ婦女ノ權理ハ諸般ノ場合ニ於テ男子ト同シカラサルヲ以テノ故ナリ

第四　其子ニ命シタル名

此レ其別人タラサル事即チ同一人タルヿヲ示定センカ爲メナリ但シ身分証書ノ官吏ハ各種ノ歴ニ於テ用ヒ來レル名又ハ上古史中ニテ知ラレタル人物ノ名ニ非レハ其子ノ名トシテ許容スヘカラス（共和政十二年「ゼルミドル」十一日ノ法律）而シテ其姓氏ハ之ヲ登記スルヲ要セス蓋シ子ハ常ニ父ノ姓氏ヲ冒スヘキ者ニシテ已ニ父母ノ姓氏ヲ記入スレハ其子ノ姓氏ハ自ラ之ニ包含セルヲ以テナリ

第五　證人ノ氏名

第六　父母ノ氏名、職業及ヒ住所

此レ其証書ヲ以テ出産ト子タル事トヲ同時ニ証明センカ爲メナリ

〔第二百八十五〕亂倫又ハ姦通ニ於ル父母ノ名ハ之ヲ陳述ス可ラス或ハ其陳述人ヨリ之ヲ陳述シタル時モ之ヲ証書ニ登記ス可ラス又從令父母ノ自ラ陳述スルアリトモ身分証書ノ官吏ハ敢テ之ヲ受ク可ラサル者トス亂倫並ニ姦通ノ子ハ隨意若クハ裁判上之ヲ認ムルヲ禁シタル第三百三十五條及ヒ第三百四十二條ニ據ル

〔第二百八十六〕然ルニ單ナル私生ノ子ニ於ル証書ニ關シテハ身分証書ノ官吏ハ其父母ノ氏名ヲ登記セサル可ラサル乎

之ヲ可トスルノ説ニ云ク父母其子ヲ認メテ自ラ知ラシメタルモノハ固ヨリ此ニ疑ヲ容ル可ラスト雖モ之ニ反スルモノニ在テハ父ノ氏名ヲ陳述ス可ラス若シ其陳述人ヨリ誤示セラレタル時モ身分証書ノ官吏ハ之ヲ証書ニ記入ス可ラス」ト是レ衆説ノ歸向スル所ニシテ現ニ私生ノ父タル事ハ第三百四十條ニ於テ已ニ其訴ヲ禁シ而メ之ヲ知ラシムルノ權

ハ獨リ其父ニ屬セルモノトセリ故ニ之カ爲メ特別ノ委任狀ヲ携帶セス妄リニ之ヲ指示シタル陳述人ハ其之ヲ記入シタル身分証書ノ官吏ト齊シク損害償ヒノ訴ヲ受ク可シトス

〔第二百八十七〕母ノ氏名ニ關シテハ如何ニ之ヲ決定セン即チ若シ陳述人之カ陳述ヲナスヲ肯セサルニ際シテモ身分証書ノ官吏ハ其出産証書ヲ登記セサルヲ得サル乎而メ陳述人ハ刑法第三百四十六條ニ明記スル所ノ刑ヲ受ク可キ乎今其實際ヲ觀ルニ身分證書ノ官吏ハ諸般ノ場合ニ際シ毎子ニ其陳述ヲ要

求シ而メ若シ陳述人之ヲ肯セサル時ハ身分證書ノ官吏モ亦其證書ヲ登記スルヲ肯セス且ツ裁判所ニ於テモ時トシテ其陳述ヲ拒ミタル陳述人ヲ罰セシフ有ルナリ斯ノ如キハ最モ法ニ適セサルモノト謂フ可シ現ニ法律ハ身分証書ノ官吏ト其子ヲ視シタル産婆トニ對シ公然其母ヲ知ラシメ以テ其要セラレタル秘事ヲ破ルカ如キ義務ヲ命スルフアラス又第五十七條ニ於テ暗ニ此義務ヲ命シタリト爲ス可ラス抑該條ニ在テハ唯其母ノ氏名ニ止マラス父ノ氏名ヲモ亦登記ス可キヲ要求セリ因テ此條項ハ特リ

嫡出ノ子ニ於ル出産證書ニ管ス可キヿ固ヨリ以テ明カナル者タリ若シ或ハ然ラサレハ其法文ニ「身分証書ノ官吏ハ啻ニ其母ノ名ヲ要スルノミナラス父ノ名ヲモ求ムルヲ得ヘシ」ト云ハサルヲ得スト雖モ此レ畢竟人ノ取ラサル所ナリ

若シ身分證書ノ官吏若クハ産婆ニ此義務ヲ命シタルモノト爲スキハ其子ノ生命ヲ危ウスルカ如キ實ニ憐ム可キノ結果ヲ生スルニ至ル可シ是レ他ナシ間接ニ其母ヲシテ親ラ其子ヲ殺害セシムルノ罪ニ誘導スルニ異ナラス即チ其母ハ自己ノ榮譽ヲ害セラレ生涯消除スルヿ能ハサルヲ恐レ遂ニ其子ヲ殺害スルヿナキニ非サルヲ以テナリ故ニ身分證書ノ官吏ハ陳述人カ其母ノ氏名ヲ陳述スルヲ肯セサル時ハ唯分明ナラサル父母ノ子ナリト證書ニ記入ス可キヲ要スルナリ

〔第二百八十七〕〔補〕若シ又陳述人ヨリ之ヲ陳述シタル時ハ身分證書ノ官吏ハ其證書ニ之ヲ登記セサルヲ得サル歟此問ニ就テハ其説一ナラス即チ左ノ如シ

〔第一説〕之ヲ登記セサルヲ得ス現ニ民法第五十六條及ヒ刑法第三百四十六條ニ於テ業ニ已ニ明瞭タル

モノナリ

〔第二說〕之ヲ登記スヽ可ラス又登記スルヲ得ス何トナレハ第三十五條ノ文ニ「身分證書ノ官吏ハ陳述人ヨリ陳述セサル可ラサル事項ノ外更ニ其証書ニ記入ス可ラストアルヲ以テナリ（第二百四十八）ヲ見ヨ而メ又法律ニ於テ陳述人ニ命スルニ其私生ノ子トシテ示ス所ノ子ノ母ヲ知ラシム可キ義務ヲ以テセシ「アラサルナリ

且ツ夫レ何等ノ利益アリテ母ノ名ヲ記入スルヤ後日其子ノ子タル事ヲ求ムル時ニ方リ其證據ニ備ヘ

シカ爲メナルカ然ルニ私生ノ子タル事ハ嫡出ノ子タル事ト相異ナリテ其出産證書ヲ以テ之ヲ證スルモノニ非ス（第九百四十六）ヲ見ヨ又此證書ハ証人ノ証據立ヲ聽ス可キ爲メ書面ニ於ル証據ノ端緒ト爲スヲ得ス何トナレハ法律ニ於テ凡ヲ此効用ヲ屬スル書面ハ唯其母又ハ生存スレハ之ニ關係ス可キ者ノ記シタル書面ニ限レルモノナレハナリ（第三百二十四條）

〔第三說〕此レ必シモ記入モサルヲ得サル者ニ非サレモ之ヲ記入スルモ亦可ナリ凡出産証書ニ母ノ名ヲ記入スルハ假令其主意アラサルモ甚タ有益ノ事ニ

シテ現ニ母ノ名ヲ示シタル出産証書ハ唯其子ノ別人タラサル事ニ於テ異論ヲ容レラレサル歟又ハ異論ヲ容レラルヽニ當テハ母ノ默許即チ母子タルノ情況アレハ直チニ其母タルノ証ト爲ルハ普ク人ノ信認スル所ナリ但シ其登記ハ斯ク至要ノ者ト雖モ特ニ法律ノ命スル所タラサルヲ以テ(第二百八十七ヲ見ヨ)身分証書ノ官吏ハ必ス之ヲ爲ザヽル可ラサルニアラス。而レモ法律ニ於テ已ニ之ヲ要セサレモ亦敢テ之ヲ禁シタルニ非サレハ身分証書ノ官吏ハ之ヲ隨意ニ取捨スルヲ理ノ當ニ然ルヘキ所トス

論者或ハ言ン「出産証書ニ母ノ名ヲ登記スルヿハ之ヲ其母タルノ証ト爲スニ足ラス又證人ノ証據立ヲ許ス可キ爲メ書面ニ於ル證據ノ端緒トナル可キモノニ非ス」ト然レモ此登記ハ後日其子ノ子タル事ヲ需メントスル時ニ方リ其憑據ノ手段ト爲ルヘキ者ナレハ亦益ナシト謂フヘカラス故ニ之ヲ登記セサルヲ以テ强チ良トスルノ理アランヤ又或ハ言ン「法律ニ於テハ之ヲ要セサルモノナリ」ト是レ我輩ノ已ニ知ル所ナリト雖モ其禁スル所ニモ非ス且ツ後日其子ノ子タル事ヲ需ムルニ際シ其憑據ノ手段ヲ具

フルカ如キハ即チ法律ノ本意タル可シ（第三百四十一）ヲ見ヨ

故ニ身分証書ノ官吏ハ法律上明ニ要セサルモ其本意ニ於テ要スル所ノ陳述ハ之ヲ受了シ且ツ証書ニ登記スルヲ得ルハ固ヨリ論ヲ待タサルナリ

〔第二百八十七〕（増補）概スルニ陳述人ハ諸般ノ場合ニ於テ嫡出ノ子ニ於ル父母ノ氏名ハ之ヲ陳述セサル可ラス又身分証書ノ官吏モ之ヲ登記セサルヲ得ス

又陳述人ハ私生ノ子ニ於ル父ノ名ハ其ノ承諾アルニ非レハ之ヲ陳述ス可ラス而ノ若シ之ヲ陳述スルモ身分証書ノ官吏ハ之ヲ登記ス可ラス

私生ノ子ニ於ル父ノ氏名ハ自ラ之ヲ陳述スル歟又ハ特別ノ委任狀アル故ヲ以テ陳述人ヨリ之ヲ陳述スル時ハ身分証書ノ官吏ハ之ヲ登記セサルヲ得ス」

私生ノ子ニ於ル母ノ氏名ニ關シテハ陳述人ハ之ヲ陳述セサルヲ得サルニ非レモ若シ陳述シタル時ハ身分證書ノ官吏ハ（吾輩ノ説ニ由レハ）之ヲ受了シ簿册ニ登記スルヿヲ得但シ其義務トシテ命セラレタル者ニ非ス。

亂倫又ハ姦通ノ父母ハ縱令自ラ請願ストモ決シテ之ヲ登記ス可ラス

〔第二百八十一〕(八)棄兒（第五十八條）

子ノ一個人タル事ヲ証明シ而ノ他日其父母ヲシテ認了セシムルニ足ル可キ一切ノ情況ヲ精密ニ拾集シ且ツ証明ス可シ故ニ初生ノ棄兒ヲ見出シタル者ハ其兒並ニ之ニ添フ所ノ衣服及ヒ其他ノ諸品ヲ身分證書ノ官吏ニ交付シ且ツ其見出シタル時ノ情況ト其場所ノ現狀トヲ陳述ス可シ若シ之ヲ行ハサレハ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル禁錮ノ刑及ヒ十六「フラン」乃至三百「フラン」ノ罰金ニ處セラル可シ（刑法第三百四十七條）

此等ノ事ヲ調書ニ詳記シ且ツ其調書ニ其兒ノ年齡、男、女、其兒ニ命ス可キ氏名、其兒ヲ交付シタル身分証書ノ官署等ヲ記載シ其調書ヲ簿册ニ登記ス可シ

〔第二百八十九〕航海中出産シタル子（從第五十九條至第六十一條）

此兒ノ出産證書ハ父ノ其所ニ在ルトキハ父ト該船ノ士官中ヨリ撰ヒタル証人二名若シ士官在ラサレハ乘組人ヨリ撰ヒタル証人二名トノ面前ニ於テ二十四時間ニ之ヲ記ス可シ但シ此証書ハ政府ニ屬スル船舶ニ在テハ海軍ノ庶務ヲ司ル士官之ヲ記シ又「アルマテール」（官許ヲ得テ運漕ヲナス者）及ヒ商賈ノ船ニ在テハ其

船長若クハ指揮者之ヲ記ス可シ

其証書ハ乗組人ノ姓名簿ノ册尾ニ之ヲ附記ス可シ

海軍ノ庶務ヲ司ル士官及ヒ船長若クハ指揮者ハ休船、舶船等ノ爲メニ始メテ卸錨シタル港又船具ヲ整フル爲メニ非ス他ノ事故アリテ始メテ卸錨シタル港ニ於テ其登記シタル出産證書ノ公正ノ副本二通ヲ佛蘭西ノ港ニ於テハ海兵召募ノ官署ニ呈シ外國ノ港ニ於テハ佛蘭西領事官ニ呈ス可シ

此副本ノ一通ハ海兵召募ノ官署又ハ領事官ノ書記局ニ藏メ他ノ一通ハ之ヲ海軍卿ニ送呈ス可シ卿ハ

其副本ヲ寫取シ自ラ之ヲ証シタル後其父ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ニ送付シ若シ其父ノ分明ナラサルトキハ母ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ニ送付ス可シ而シテ該官吏ハ其謄寫ヲ以テ直チニ身分證書ノ簿册ニ登記ス可シ

又船具ヲ整フ可キ港ニ着船シタル時ハ其乗組人ノ姓名簿ヲ海兵召募ノ官署ニ納メ該署ノ官吏ハ其出産証書ノ一通ヲ記シ已レノ姓名ヲ手署シテ之ヲ其父ノ住所ニ於ル身分證書ノ官吏ニ送付シ若シ父ノ分明ナラサルトキハ母ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏

ニ送付スヘシ而メ該官吏ハ其副本ヲ以テ直チニ身分証書ノ簿册ニ登記ス可シ

〔第二百九十〕出産證書ヨリ後ノ証書ニ憑テ認メラレタル私生ノ子第六十二條

凡ソ私生ノ子ハ其出産證書又ハ後ノ証書ニ憑テ之ヲ認ムルヿヲ得ヘシ而メ後ノ証書ニ憑ルモノハ或ル民生官吏例ヘハ公證人若クハ曾テ其出産証書ヲ收受セシ身分證書ノ官吏若クハ他ノ身分證書ノ官吏ノ面前ニ於テ之ヲ認ムルヿヲ得可シ

出産證書ニ於テ認メラルヽ時ハ此證書ヲ以テ其出

産ト其子タル事トヲ證スヘシ之ニ反スル場合ニ於テハ其子タル事ハ其認定ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ

故ニ認定ノ證書ハ之ヲ公明ニシ及ヒ其保存ヲ固ウスルヲ緊要トス是レ法律ニ於テ認定ノ證書ハ即日出産證書ノ簿册ニ登記シ且ツ其子ノ出産證書ノ欄外ニ之ヲ記入ス可キヲ要スル所以ナリ

假令ハ千八百五十一年四月一日或ル出産證書ヲ收受シ而メ分明ナラサル父母ノ子ト登記セシニ千八百五十三年七月一日ニ至リ其父母前年其子ノ出産

證書ヲ收受シタル身分證書ノ官吏ノ面前ニ於テ之ヲ認ムルノ事アルトキハ該官吏ハ左ノ如ク之ヲ登記スヘシ

第一　本年所用ノ出産證書ノ簿冊ニ即日之ヲ登記スヘシ審ニ言ヘハ千八百五十三年一月一日ニ於テ其認定ノ証書ヲ記入ス可シ

第二　千八百五十一年ノ簿冊ニ登記セシ其子ノ出産証書ノ欄外ニ之ヲ記入ス可シ是レ他日之ヲ參考スル者ニ其子ノ出産ト其認定ノ証書トヲ同時ニ知ラシメンカ爲メナリ

他ノ身分証書ノ官吏又ハ公証人ノ面前ニ於テ認ムル時ハ其認定証書ノ公正ナル副本或ハ然ラサルモ法ニ適シタル副本一通ヲ前年其子ノ出産証書ヲ收受セシ身分証書ノ官吏ニ送付ス可シ該官吏ハ之ヲ本年所用ノ簿冊ニ登寫シ亦出産証書ノ欄外ニ記入ス可シ

此ノ登寫ト記入トハ身分証書ノ登記ニ就テ定メラレタル普通ノ規則ニ從テ爲スヲ要ス故ニ證人二名ノ面前ニ於テセサルヲ得ス但シ此事ニ關シテハ法律上特ニ明文ナキヲ以テ或ハ此ノ法式ニ注意セサ

ルモ其登寫ヲ無効ニ属ス可キモノナラス

又出産証書ヲ收受セシ身分証書ノ官吏ヨリモ他ノ民生官吏ノ面前ニ於テセル認定ト其出産ノ地ニ於ル身分証書ノ簿册ニ之ヲ登寫スル事トハ互ニ關係ナキモノトス但シ其登寫ヲ需ムルハ固ヨリ良好ノ所爲ナレモ法律上其認定ヲ無効ニ属スル如キ罰ヲ設ケ强テ之ヲ要求セシニ非ルナリ

〔第二百九十一〕 其實嫡出ノ子ニシテ若シ分明ナラサル父母ノ子ト登記セラレタル歟又ハ出産証書ニ其父母ノ名ヲ記入セラレサリシ時ハ其父母ハ本年所

用ノ簿册ニ登記シ且ツ其子ノ出産証書ノ欄外ニ記入セル後ノ認定証書ニ據テ此ノ子ノ嫡出タルヲ証スルヲ得ヘキヤ一般ニ之ヲ否トスルノ説ヲ採レリ

凡ソ出産証書ニ於テ若シ嫡出ノ父母ノ名ヲ記入セサルキハ其証書ヲ以テ不規則即チ完全セサルモノトスヘシ（第五十七條）偖身分証書ノ不規則及ヒ欠漏ハ裁判上ノ法方ニ從テ之ヲ改正スルヲ要ス故ニ到底証書ノ改正ノ通則ニ属ス可キモノタリ而シテ証書ノ改正ハ其裁判言渡ニ由ルニ非サレハ之ヲ行フヿヲ得ス（第三百十）及ヒ以下ヲ見ヨ

○第三章　婚姻証書

第五卷第二章婚姻ノ條下ニ於テ併セテ之ヲ講明セン

○第四章　死去証書

〔第二百九十二〕本章ニ於テハ二類ノ條目ヲ包含ス一ハ司法警察ノ方法ニ属シ左ノ二件ヲ規定スルモノタリ

第一　定期前ノ埋葬ヲ預防センカ爲メニ死去ヲ檢視スル事及ヒ誤テ昏睡病者ヲ埋葬スルヲ防ク事

第二　横死ノ徵アル時ハ其犯跡ノ搜索ニ便トナル可キ諸般ノ情況ヲ拾集スル事

又一ハ死去証書ノ登記ニ關スルモノニシテ其趣意二アリ左ノ如シ

第一　死去ヲ証明スル事

第二　死者ノ別人タラサル事

〔第二百九十三〕(一)死去ヲ檢視スル爲メニ定メタル司法警察ノ方法第七十七條

凡ソ埋葬ハ預メ其允許ヲ得ルニ非レハ之ヲ行フヿヲ得ス

此ノ允許狀ハ通常ノ紙上ニ書シ其費用ヲ要セスシテ身分証書ノ官吏ヨリ之ヲ付與ス可シ但シ該官吏ハ親シク其死去ヲ檢視シタル後ニ非レハ之ヲ付與ス可ラス故ニ死者ノ住所ニ到ラサルヲ得サルモノトス然ルニ其實際ニ於テハ親シク檢視スルヿナク之ヲ醫員ニ委託セリ斯ノ如キ慣習ハ法律ノ本文ニ適セサルモノナレ𪜈其本意ニ於テハ暗ニ許ス所ナリ

凡ソ埋葬ハ死後二十四時間ヲ經ルニ非レハ之ヲ行フヿヲ得ス（刑法第二十八條）但シ其允許狀ハ身分証書ノ官吏死去ノ檢視ヲ了ヘタル後直チニ之ヲ付與スルヿヲ得ヘシ

警察上ノ諸規則ニ由テ特ニ定メラルヽ所ノ場合例ヘハ傳染病等ニテ死去シタル時ハ通常ノ定期ニ前ヲ之ヲ埋葬スルヲ得ヘシ

〔第二百九十四〕(三)犯跡ノ搜索ニ便トナル可キ諸般ノ情況ヲ拾集スル爲メニ定メタル警察ノ方法（第八十一條）

凡ソ横死ノ徵アル時並ニ横死タルヿヲ察度ス可キノ事態アル時ハ警察官吏ハ内外科ノ「ドクテル」ノ助ヲ

借リテ死體ノ形狀及ヒ之ニ關シタル事情ヲ審明シ又死者ノ姓名、年齡、職業、出產ノ地、住所等ヲ點查シ之ヲ調書ニ記シタル後始テ其埋葬ヲ容ス可キモノトス

〔第二百九十五〕(三)死去証書ノ登記第七十八條

死去証書ハ証人二名ノ陳述ニ從ヒ身分証書ノ官吏之カ登記ヲナス可シ故ニ死去証書ノ証人ハ其陳述ノ人ノ職ヲ兼ヌ可キモノタレハ死去証書ノ陳述ハ証人ト爲ルニ足ル可キ能力アル者即チ男ニシテ二十一歲以上ノ者ニ非レハ之ヲ行フヿヲ得ス第三十七條

死去証書ノ証人ハ成ル可キタケ最近ノ血族又ハ近隣ノ者二名ヲ撰フ可シ若シ住所外ニ於テ死去シタル時ハ其一人ハ死去シタル家ノ者他ノ一人ハ死者ノ血族或ハ其他ノ者ヲ用フ可シ

法律上右等ノ人ニ對シ明ニ死去ノ陳述ヲ爲ス可キ義務ヲ命シタルニ非ス唯右等ノ人ノ陳述ハ他人ノ陳述ヨリモ特ニ推撰ス可キ者ト爲スニ過キサルノミ蓋シ最近ノ親族並ニ近隣ノ者ハ証書ノ登記ニ於テ必ス欠ク可ラサルノ諸件ヲ示スニ最モ至當ノ者タルヲ以テナリ

〔第二百九十六〕 千七百九十二年十一月二十日ノ法律

ハ死去ノ陳述ヲ爲スニ必ス二十四時間ヲ限ラント欲シ若シ之ニ背ク者ハ之ヲ禁錮ノ刑ニ處セシメタリ然ルニ「コード」ニ於テハ此條規ヲ收用セサルナリ是レ其編者ノ意タル凡ソ埋葬ハ事實二十四時間ノ後ハ直チニ之ヲ行ハサルヲ得サレハ該時限内ニ必ス身分証書ノ官吏ニ陳告シ其看査ヲ請フヘキヲ推考シタルニ因レリ他ナシ埋葬ハ其允許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ行フヿ能ハサルヲ以テナリ

却説凡ソ死去ノ陳述ヲ爲サヽルカ又ハ之ヲ怠リタル最近ノ血族及ヒ近隣ノ者ハ昔日ノ如ク禁錮ノ刑ニ處セラル可キモノニ非ルハ固ヨリ以テ明カナリ抑法律ハ此事ニ關シ更ニ其義務ヲ命セサルヲ以テ亦此諸人ニ對シ一ツモ刑典ヲ制設セシヿアラサルナリ

〔第二百九十七〕 死去證書ハ左ノ件ヲ證スルニ止マルモノトス（第七十九條 第八十五條）

第一　死去

第二　死者ノ別人タラサル事

死去前後ノ景況ハ其死去證書ニ之ヲ記入ス可ラス

故ニ自殺、殺害又ハ獄舍、徒刑場等ニ於テ死去シ或ハ死刑ニ處セラレシ者等ハ其死去證書ニ死狀ヲ記セサルモノトス蓋シ法律ハ一家ノ榮譽ヲ汚スカ如キ事項ヲ以テ之ヲ後世ニ記念セシムルヲ欲セサルニ因ルモノニシテ理ノ當ニ然ル可キ所ナリ

是故ニ死去証書ニ於テハ啻ニ左ノ件ヲ記入スルノミ

第一　死者ノ氏名、年齡、職業及ヒ住所、既婚者又ハ鰥寡タル事

第二　知リ得ルニ於テハ父母ノ氏名、職業及ヒ住所

第三　出産ノ地

此等ノ諸件ヲ記載スルハ死者ノ別人タラサル事ヲ審定センカ爲メナリ

〔第二百九十八〕　法律ハ出産ノ日、時ヲ以テ其證書ニ記入ス可シト明示シ而ノ死去証書ニ於テハ其日、時ノ登記ヲ明ニ要求セス然レモ死去ノ日時ヲ詳ニスルハ出産ノ日時ヲ詳ニスルヨリモ更ニ至要ノ者ナリトス現ニ死者ヲシテ他人ノ遺物相續ヲ受クヘキ能力ヲ失ハシメ又已レノ遺物相續ヲ始メシムルハ皆

其死去ノ時刻ニ由ルモノタレハ或ハ之ヲ進退シ以テ財産受得ノ法ニ適シタル順序ヲ變更スルヲ得ヘキナリ且ツ夫レ遺物相續ヲ受ケ又贈遺ヲ得ヘキノ能力ハ出産ノ時刻ニ管スヘキモノナラス畢竟胎兒ハ其生出シ及ヒ生長スヘキノ徵候アレハ懷胎ノ時ヨリ已ニ此能力ヲ有テルモノナレハ何ソ其出産時刻ノ如何ニ管センヤ

斯ノ如ク至要ノ事タリト雖ヒ法律上特ニ明文ナキヲ以テ遂ニ數多ノ疑問ヲ生セリ左ノ如シ

身分証書ノ官吏ハ法律上明ニ要求セスト雖ヒ死去ノ日時ニ就テ其陳述ヲ受ケタル時ハ之ヲ登記セサルヲ得サル乎

之ヲ登記スヘカラサルニ非サレヒ少クモ之ヲ登記スルヲ得サル乎

若シ之ヲ登記シタルトキハ其登記ハ眞正ノ力ヲ有ツヘキ乎

之ヲ排斥セントスルニハ夫ノ贋造ノ訴ニ由ラサルヲ得サル乎

〔第二百九十九〕〔第一説〕身分証書ノ官吏ハ法律ニ從テ爲サヽル可ラサル陳述ノ外之ヲ收受シ及ヒ記入ス

可ラス（第三十五條）而シテ死去ノ日時ニ於ル登記ハ法律ノ特ニ要セサル所ナレハ之ヲ登記ス可ラス

故ニ死去ノ日時ニ於ル登記ハ眞正ノ力ヲ保ツモノナラスシテ其陳述人ハ之ヲ示ス可キ權ヲ有セス又身分証書ノ官吏ハ之ヲ受ク可キ職ニ非ス乃チ其證書ハ之ヲ無効ニ属ス可キナリ

之ニ反スル説ノ如キハ極テ危害ヲ免レス現ニ此登記ヲ法律ノ要セシ者トセハ何等ノ成果ヲ生スヘキカ今試ニ之ヲ左ニ示サン

陳述人ハ其陳述ヲ爲ス可キ權アリトセンカ然ル時

ハ其陳述ヲ看テ事實ニ適合シタルモノト做サヽルヲ得ス但シ通常ノ方法ニ因リ之ヲ排斥スルヲ得ルト雖モ其贋造タル確証ノアラサル間ハ勿論証據ト爲ル可キモノタリ

又身分証書ノ官吏ハ其陳述ヲ受ク可キ職務ナリトセンカ然ル時ハ証書ニ之ヲ記入スルハ即チ民生官吏ノ職掌ヲ以テスルモノナルカ故ニ若シ該官吏カ其陳述人ヨリ示サヽル所ノ時刻ヲ証書ニ記入セリト主張スル者アルトキハ其辭柄ヲ証スル爲メ夫ノ危害ヲ免レサル贋造ノ訴ニ由ラサルヲ得サルナリ（第二

（百六十一ヲ見ヨ）

如是ハ則チ其陳述人ト身分証書ノ官吏トニ非常ノ權理ヲ授ルモノニシテ固ヨリ法律ノ欲セサル所トス何トナレハ此等ノ者ニ在テハ其死去ノ時刻ヲ進退シ以テ遺物相續又ハ贈遺ノ法ニ適シタル順序ヲ變更スルヲ得レハナリ抑法律ニ於テハ死去ノ時刻ハ極メテ重大ノ事ニ管スルモノタレハ其死去証書ヲ以テ之ヲ詳明スルヿ能ハサルヘシト思考セシヨリ之ヲ裁判所ノ權限ニ属シタリ夫レ然リ故ニ死去証書ニハ其日時ヲ示サヽルヲ以テ却テ至要ノ事トスヘシ且ツ千八百〇六年七月十四日ノ勅命ヲ以テ死子ヲ視サレタル身分証書ノ官吏ニ對シ其死去証書ニ其子ノ死シタル時刻又ハ死出タル事等ノ記入ヲ禁シタルモ亦此趣意ニ基クナリ是ヲ以テ該官吏ハ其子ノ生死如何ヲ問フヿナク專ラ之ヲ裁判所ノ權限ニ属シ唯其死子ヲ視サレシヿヲ登記スルニ止ルノミ（第二百八十三ヲ見ヨ）

〔第三百〕〔第二說〕身分証書ノ官吏ハ死去ノ時刻ヲ登記セサルヲ得サルニ非ルハ固ヨリ以テ論ヲ俟タス然レモ此事ニ就テハ法律上特ニ制禁ヲ置カサルカ故

ニ該官吏ハ其日時ニ關シ受ケタル陳述ノ登記ヲナスモ敢テ妨ケアル可ラス但シ此登記ハ贋造ノ訴アルマテ証據トナル可キモノニ非サルヲ以テ之ヲ排斥セントスル者ハ縱令該官吏ノ登記シタル時刻カ其受ケタル陳述ト異ナレルヲ辭柄トナス時ニ在テモ諸般ノ方法即チ諸証書、証人又ハ單一ノ推測ニ由リ之ヲ訴フルヿヲ得ヘシ是レ身分證書ノ官吏ハ時刻ノ陳述ヲ受ケ之ヲ記入スルノ職務ヲ法律ニ於テ命セラレタル者ニ非レハ其記入タル猶平人ノ所爲ニ異ナラス之ヲ再言スレハ其陳述ハ証人二名ノ証據立ニ止リテ其記入モ亦平人ノ証據立ヲ記シタルニ過キサルヲ以テナリ是ニ於テカ其贋造タル、ノ証ヲ立テサル間ハ兩ナカラ事實ニ適シタル者ト看做サル、モ若シ之ヲ排斥セントスル時ハ贋造ノ訴ニ由ルヿヲ須ヒス通常ノ方法ヲ以テ之ヲ証スルヲ得ヘシトス

〔第三百〇一〕(四)兵病院、尋常病院又ハ其他ノ公舍等學校或ハ宗教院ニ於テ死去シタル事第八十條

是等公舍ノ主者、支配人及ヒ所有者ハ二十四時間ニ其旨ヲ身分証書ノ官吏ニ報告スルヲ要ス而シテ該官

吏ハ死去ヲ檢スル爲メ公舍ニ臨ミ其受ル所ノ陳述ト自ラ檢視シタル諸件トニ循ヒ其死去証書ヲ記ス可シ但シ該証書ハ之ヲ死者ノ最終ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ニ送付シ該官吏ハ之ヲ身分証書ノ簿冊ニ登記ス可シ

又法律ニ於テ此等ノ公舍ニハ身分証書ニ記入セサル可ラサル陳述及ヒ看査シタル諸件ヲ登錄ス可キ爲メノ簿冊ヲ設ケ置ク可キヲ要求セリ但シ其簿冊ハ固ト平人ノ所爲ニ属スル者タレハ眞正ノ力ヲ具有スルモノニ非ス

〔第三百〇二〕（五）横死ノ徵候アル事及ヒ横死タルヿヲ察度ス可キ情況アル事 第八十一條 第八十二條

此時警察官吏ハ其調書ニ誌シタル諸件ニ云ヘリ其地ノ身分証書ノ官吏ニ報告スルヲ要ス（第二百九十四）

該官吏ハ此調書ニ從ヒ死去証書ヲ記スヘシ（ヲ見）

法律ニ於テハ調書ニ誌シタル諸件云々ト云ヘリ是レ蓋シ其誤謬ヲ免レサルモノタリ現ニ警察官吏ノ其調書ニ誌ス可キモノハ其横死タルヲ察度スルニ足ル可キ諸般ノ徵候若クハ態様並ニ死骸ノ形狀等ナリ然レトモ此等ノ諸件ハ盡ク之ヲ身分証書ノ官吏

ニ報告セサルヲ得サルニ非ス他ナシ斯ノ如キ細微ノ事ニ至テハ其死去証書ニ登記ス可キモノニ非サレハナリ（第二百九十七）ヲ見ヨ故ニ其報告ヲ要スル者ハ唯死去証書ニ登記ス可キ所ノ諸件即チ死者ノ氏名、職、業年齢、出産ノ場所、及ヒ住所等ノ如キ其身分ニ管スル件項ニ過キサルノミ

又身分証書ノ官吏ハ死者ノ住所ヲ知リ得タルニ於ハテ死去証書ヲ記シタル後直チニ其副本一通ヲ該地ノ身分証書ノ官吏ニ送付スヘク該官吏ハ此副本ヲ身分証書ノ簿冊ニ記入ス可シ

〔第三百〇三〕（六）死刑ニ處セラルタル者ノ死去（第八十三條）

此時刑事裁判所ノ書記官ハ第七十九條ニ所載ノ諸件ヲ以テ其行刑ノ時ヨリ二十四時間ニ行刑ノ地ニ於ル身分證書ノ官吏ニ送付シ該官吏ハ此諸件ニ從ヒ其死去證書ヲ記スヘシ

〔第三百〇四〕（七）獄舍及ヒ徒刑場等ニ於テ死去シタル事（第八十四條）

使吏及ヒ獄監ヨリ直チニ之ヲ身分証書ノ官吏ニ報告ス該官吏ハ其死ヲ檢スル爲メ其所ニ至リ自ラ聽ク所ノ陳述ト親シク檢視シタル諸件トニ從ヒ其死

去証書ヲ記ス可シ

〔第三百〇五〕(八)航海中ニ死去シタル事第八十六條第八十七條

航海中ニ死去シタル者ノ証書ハ航海中ニ分娩シタル者ノ出産証書ニ於ル法式ト同一ノ式ヲ用フ可シ

〔第三百〇六〕(九)溺死、焼死、壓死及ヒ其死體ノ分明ナラサル事

此場合ニ於テハ邑長其事件ニ管シタル諸般ノ情況ヲ調書ニ記ス可シ但シ其調書ハ檢官ノ要求ニ從ヒ裁判所ノ允許ヲ得タル上之ヲ身分証書ノ簿冊ニ附副シ以テ其死去証書ニ代フ可シ千八百十三年一月三日ノ勅命

○第五章　佛蘭西國外ニ在ル兵士ニ管スル身分証書從第八十八條至第九十八條

〔第三百〇七〕「コード」草案編者ノ考案ニ據レハ第四十七條及ヒ第四十八條ハ佛蘭西國外ニ在ル兵士ニモ亦之ヲ適用セサルヲ得ス故ニ此兵士ニ管スル身分證書ハ本國ノ法式ニ循ヒ我カ交際官吏若クハ領事官或ハ其駐在セル國ノ法式ニ循ヒ場所ハ証書ヲ支配スト云フ規則ニ由リ外國ノ民生官吏ニ就テ記成セラルヽヲ得ヘシ

然ルニ一等岡士ナポレヲン第一世曾テ一ノ擬律案ヲ草シ之

ヲ議院ニ示セシカ議院ニ於テ實ニ之ヲ收用セリ其草案ニ云ク「從軍ノ兵士ハ決シテ外國ニ在ル者ニ非ス凡佛蘭西ノ國旗ヲ掲クル所ハ即チ佛蘭西國ナリ」ト此草案ニ從ヘハ率ヒ我兵隊ノ主領セシ外國ノ土地ハ法律上看テ佛蘭西國ト做ス可キモノタリ是ニ於テカ左ノ規則ヲ設ク曰佛蘭西國外ニ在ル兵士ニ管スル身分證書ハ佛蘭西ノ法式ニ循ヒ佛蘭西ノ民生官吏之ヲ記ス可シ」ト

我民生官吏ニ屬スル此權限ハ(何人ヲ以テ此職ニ任スルヤ後ニ之ヲ說明セン)之ヲ其義務ト爲ス可キ歟

將タ其隨意ニ任ス可キ歟之ヲ再言スレハ佛蘭西國外ニ在ル兵士ニ管スル身分證書ハ其駐在スル國ノ法式ニ循ヒ外國ノ民生官吏カ記シタル者ハ總テ其効ヲ保タサル歟

此疑問ハ佛蘭西ノ國旗ヲ掲クル所ハ即チ佛蘭西國ナリト云フ規則ニ由テ之ヲ定斷スルヲ得ヘシ抑我兵隊ノ主領セシ外國ノ土地ハ兵士及ヒ軍中ニテ使用セル者ニ關シテハ直チニ之ヲ佛蘭西國ト看做スカ故ニ該地ニ在テハ外國ノ民生官吏タル者毫モ公證書ニ預ル可キノ權理ナク隨テ亦此者等ノ身分證

書ヲ作成スルノ權ヲ有セス此ニ因テ之ヲ例セハ軍中或ハ軍中ノ兵病院ニテ死去シタル者ノ死去證書ハ我國ノ法式ニ循ヒ我民生官吏ノ記シタルモノニ非レハ總テ其効アル可ラス而メ外國ノ民生官吏ノ記シタルモノハ固ヨリ無効ノ證書ニ屬スルナリ

佛蘭西兵隊ノ主領セシ外國ノ女子ト我兵員トノ際ニ婚ヲ結ハントスル時ハ我民生官吏ハ我國法ニ循ヒ其婚姻ヲ執行スルヲ得ヘシ是レ我國内ニ在テ婚姻ヲナスニ異ナラサルヲ以テナリ偖我民生官吏タル者佛蘭西國内ニ於テハ啻ニ雙方佛蘭西人ノ婚姻

ヲ執行スルヲ得ルノミナラス一ハ佛蘭西人一ハ外國人タル婚姻ヲモ亦之ヲ行フ可キノ權ヲ有セリ之ニ反シテ外國ノ民生官吏ハ敢テ之ヲ行フヲ得ス他ナシ此國ハ法律上已ニ佛蘭西國ト看做サル丶ヲ以テ該官吏ノ公證書ヲ作成ス能ハサル所ナレハナリ

是故ニ我兵隊ノ主領セシ土地ニ於テハ獨リ我民生官吏ノミ兵士及ヒ軍中ニテ使用スル者ノ身分證書ヲ記成スルノ權ヲ有セリ且ツ一ハ佛蘭西人一ハ外國人タル者ニ關スル證書ニ於ルモ亦同シトス

然ルニ兵士及ヒ軍中ニテ使用スル者ニ非サル佛蘭西人ニ關スル証書ハ其國ノ法式ニ循ヒ外國ノ民生官吏又ハ我國ノ法式ニ循ヒ我交際官吏ニ由テ記サルヽヿヲ得ヘシ

若シ其外國人ニノミ管スルモノハ獨リ外國ノ民生官吏ノ權限ニ属ス可シ

我兵隊ノ主領セシ土地ヨリ外ニ在ルカ又ハ敵ニ捕虜セラレシ兵士若クハ軍中ニテ使用スル者ニ至リテハ第四十七條幷ニ第四十八條ヲ以テ之ヲ規定スルヿ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ蓋シ此等ハ我カ國旗ノ下ニ居ラサルヲ以テ已ニ佛蘭西國ニ在ラサル者タルニ因レリ

〔第三百〇八〕 右ニ記スル所ノ者ヲ以テ爰ニ之ヲ約言スルヿ左ノ如シ

第一 佛蘭西國外ニ從軍スル兵士又ハ軍中ニテ使用スル者ノ出産、婚姻、死去ヲ証スル爲メ我法律ヲ以テ特別ノ規則ヲ定メタリ

此規則ハ止タ外國ニ在テノミ循用ス可キモノトス但シ此趣意ニ基キ本國内ニ在ル時ト雖モ軍事ニ係レル不虞ノ事項ニ因テ若シ其民生官吏ト往復ヲ絶

ツニ際シテハ亦之ヲ適用スルヲ得ヘシ其他內國ニ於ル從軍ノ兵士及ヒ軍中ニテ使用スル者ハ總テ常則ノ諸定規ニ遵フヲ要ス

第二　我兵隊ノ主領セシ土地ニシテ完ク其全權ニ屬シタル所ニ非サレハ此規則ヲ適用ス可ラス其他ハ總テ常則ニ循フヲ要ス

第三　我兵隊ノ主領セシ土地ニ於ルモ兵士及ヒ軍中ニテ使用スル者ニ非サレハ役夫又ハ從僕ノ如キ者此規則ヲ以テ支配ス可ラス而メ第四十七條幷ニ第四十八條ノ例規ヲ適用ス可シ

第四　我兵隊ノ主領セシ土地ニ於テ兵士及ヒ軍中ニテ使用スル者ニ管シテハ獨リ我カ民生官吏ノ權限ニ屬ス可キ者トス而メ第四十七條幷ニ第四十八條ノ例規ハ之ニ適用ス可ラス

〔第三百〇九〕　左ニ其詳細ヲ說明セン

一個又ハ數個ノ步兵大隊或ハ騎兵大隊ノ「カルナエ」、「メートル」兵隊中ノ諸務ヲ司ル官（共和政第十二年「ウンデミエール」一日ノ決議書ニ因リ「レジマン」隊ノ「マジョール」將帥ニ從事シ其命令ヲ以テ之ニ代ヘタリ）及ヒ兵隊ノ指揮官ハ身分證書ノ官吏ノ職ヲ行フ可シ而メ兵隊ヲ行フヘキ官吏

指揮セサル士官及ヒ軍中ニテ使用スル者ノ身分證書ニ管シテハ一軍若クハ其一部ニ屬スル閱兵ノ監察官タル者此職ヲ行フ可シ(千八百十七年七月二十九日ノ王命ニ由リ軍監又ハ副軍監ヲ以テ之ニ代ヱタリ)

各兵隊ニ於テハ其隊ニ在ル者ノ出産、婚姻、死去ノ爲メニ簿册一卷ヲ設備シ又一軍及ヒ其一部ノ「エタート、マジョール」ニ於テハ兵隊ヲ指揮セサル士官及ヒ軍中ニテ使用スル者等ノ婚姻及ヒ死去ノ爲メニ簿册一卷ヲ設ケ置ク可シ但シ該簿册ハ兵隊及ヒ「エタート、マジョール」ニ屬スル他ノ簿册ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ保存シ軍隊歸國ノ時之ヲ兵部ノ書庫ニ藏ム可シ

其簿册ハ各隊ニ於テハ之ヲ指揮スル士官又「エタート、マジョール」ニ於テハ其總伍長之ニ記號ヲ附シ且ツ横線ヲ畫ス可シ

軍中ニ於ル出産ノ陳述ハ十日内ニ之ヲ爲シ而シテ常則ノ定規(三日)第三十五條ハ之ニ適用ス可ラス蓋シ法律ハ軍中ニ在テハ其陳述ヲ爲シ及ヒ證人ヲ撰ヒ又ハ證書ヲ記スル等ノ爲メ或ハ其余暇ヲ得サラシヲ察シ以テ此規則ヲ設ケシナリ

身分証書ノ登記ニ任シタル士官ハ其簿册ニ出産証書ヲ記入セル後十日以内ニ其摘撮書ヲ父ノ最終ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ニ送付シ若シ其父ノ分明ナラサル時ハ母ノ最終ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ニ送付ス可シ

兵士及ヒ軍中ニテ使用スル者ノ婚姻公告ハ其最終ノ住所ニ於テス可シ且ツ此公告ハ婚姻ノ執行ニ前ツ二十五日ニ方リ兵隊中ノ者ニ就テハ本隊毎日ノ命令書中ニ登記シ又兵隊ヲ指揮セサル士官及ヒ軍中ニテ使用スル者ニ就テハ一軍又ハ其一部ニ於

ル毎日ノ命令書中ニ登記ス可シ

身分証書ノ管守ニ任シタル士官ハ婚姻執行ノ証書ヲ記シタル後直チニ其副本一通ヲ夫婦ノ最終ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ニ送付ス可シ

死去証書ハ各兵隊ニ就テハ「レジマン」隊ノ「マジョール」又兵隊ヲ指揮セサル士官及ヒ軍中ニテ使用スル者ニ就テハ軍監又ハ副軍監証人三名ノ証ヲ以テ之ヲ登記ス可シ(常則ニ於テハ証人二名ヲ要スルノミ第七十八條)但シ其摘撮書ヲ十日内ニ死者ノ最終ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ニ送付ス可シ

搬運ス可キ兵病院又搬運ス可ラサル兵病院ニ於テ死去シタル者アル時ハ其病院ノ支配人死去ノ証書ヲ記シ其死者ノ属スル「レジマン」隊ノ「マジョール」或ハ一軍若クハ一部ノ軍監ニ之ヲ送付ス可シ該士官ハ其証書ノ副本一通ヲ死者ノ最終ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ニ送付ス可シ

前ニ記列シタル者等ノ最終ノ住所ニ於ル身分証書ノ官吏ハ兵隊ヨリ證書ノ副本ヲ収受シタル時直チニ之ヲ身分証書ノ簿冊ニ登記ス可シ

○第六章　身分証書ノ改正（第九十九條）

〔第三百十〕（一）証書ノ改正ヲ請願ス可キ場合

証書ノ改正ハ左ニ記列スルカ如キ時ニ方テ之ヲ請願スルヿヲ得ヘシ

第一　証書ニ登記セサル可ラサル諸般ノ事項ヲ記入セサル時例ヘハ出産証書ニ於テ其子ノ男、女、出産ノ日時、嫡出ノ父母ノ氏名等ヲ記入セサル時

第二　証書ニ登記ス可ラサル諸般ノ事項ヲ記入シタル時例ヘハ亂倫又ハ姦通ノ父母ノ氏名ヲ記入シタル時（第二百八十五）ヲ見ヨ

第三　証書ニ於テ妄リニ變更ヲ加ヘタル時又ハ

虛名ヲ記シタル時

〔第三百十一〕(二)証書ノ改正ヲ請願スルヿヲ得ヘキ者及ヒ之ヲ命スルノ權ヲ有スル官署

此法律原案ノ編者ハ証書ノ改正ヲ分チ以テ之ヲ二類トス一ハ檢官ノ需ニ應シ裁判所ノ職務上ニテ行ヒタル改正一ハ証書主等ノ請願ニ由リシ裁判上ノ改正是ナリ然ルニ定案ノ編纂ニ至テハ甲ノ改正檢官ノ需ニ應ヲ消除セシカ故ニ証書ノ變更即チ改正ハ其証書主等ノ請願ニ由リ裁判所ニ於テ命スルモノニ非レハ敢テ行フヿヲ得ス云々

故ニ身分証書ノ官吏ハ証書ノ登記ニ錯誤アルニ際シ何レノ場合ト雖モ其職務ヲ以テ之ヲ改正スルヲ得ス而メ其証書主等ヨリ之カ爲メ該官吏ニ專權ヲ與フル時ト雖モ亦同シトス嘗テシメオン氏ノ參議院ニ於テ云ヘルヿアリ曰凡ソ書記シタル者ハ即チ已ニ書記シタルモノナリ而メ身分証書ノ官吏ハ其委託セラレタル者ニ叨リニ觸手スルヿ能ハス」ト

又檢官ハ其至要ナリト思量シタル改正ト雖モ自ラ之ヲ求ムルヲ得ス但シ法律ハ檢官ニ授クルニ簿册ノ實況ヲ檢閲シ其發見セシ錯誤又ハ遺忘ヲ告白セ

シメ其違犯者ニ對シテ處刑ヲ要ムルノ權ヲ以テ、セリ然レモ其權限ハ全ク此ニ止マリテ其發見シタル錯誤ノ改正ヲ請ヒ及ヒ之ヲ爲サシムルノ權ニ至テハ更ニ之ヲ有ス可ラサル者トス（第二百五十九）ヲ見ヨ

此權理ハ獨リ證書主等ノミニ屬ス可キモノトス故ニ縱令不規則ナル證書ト雖モ證書主等ヨリ其改正ヲ請ハサル間ハ之ヲ原狀ニ付ス可キモノトス而ノ若シ之ヲ請ントセハ輒チ裁判所ニ訴フルヲ要ス裁判所ニ於テハ証書主等ノ中其之ヲ請ハサル者ト雖モ此訴ニ就テ必要ト思料シ且ツ其所在ノ分明ナルトキハ之ヲ召喚スルヿヲ得ヘシ是レ他ナシ其裁判言渡ノ或ハ其利害ニ關スルヿアルヲ以テナリ（第三百十五）ヲ見ヨ

〔第三百十二〕 裁判所ニ於テハ何レノ場合ト雖モ先ツ檢官ノ意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ其裁判ヲ言渡スヿヲ得ス此レ即チ訴訟法第八十三條ヲ履行スルモノタリ該條ニ曰凡ソ人ノ分限ニ關スル詞訟ハ之ヲ檢官ニ報告ス可シト故ニ檢官ハ証書ノ改正ヲ求ムルノ權ナシト雖モ其請願ノ當否ニ從ヒ或ハ之ヲ助ケ或ハ之ヲ排斥スルヲ得可シ

〔第三百十三〕 民法ニ於テハ証書ノ改正ニ關シ其請願

ニ就テ審判ヲ行フ可キ當該ノ裁判所ト其訴訟ノ方法トハ共ニ之ヲ一定セシフナク而メ此二項ハ訴訟法第八百五十五條及ヒ第八百五十八條ニ於テ之ヲ規定セリ

〔第三百十四〕 右ニ記スル所ノモノヲ以テ此ニ之ヲ約言セハ即チ左ノ如シ

第一 身分証書ノ改正ハ其裁判言渡ヲ以テスルニ非レハ之ヲ行フフヲ得ス但シ此裁判言渡ハ常ニ之ヲ控訴スルヲ得ヘシ（第二百五十九）ヲ見ヨ

第二 裁判所ハ其職務上ニテ之ヲ命スルフヲ得ス

第三 檢官ハ其改正ヲ求ムルノ權ナシト雖モ預メ其意見ヲ聽カレサルヲ得ス

第四 証書主等ノミ其改正ヲ請フフヲ得ヘシ而メ其訟ヲ受ケタル裁判所ニ於テ其証書主等ヲ召喚ス可キ道理アリト視ルキハ縱令改正ヲ請願セサル者ト雖モ亦之ヲ召喚スルフヲ得ヘシ

〔第三百十五〕 (三)証書ノ改正ヲ執行シ能フ可キ者第百條

凡ッ法律ハ國ノ安寧ヲ慮リ及ヒ詞訟ニ其定限ヲ置ンカ爲メ裁判所ニ於テ決定セシモノハ概シテ之ヲ眞

理ニ適シタル者トセリ然レモ此推測ハ固ヨリ確然タル可キニ非ス唯其詞訟ニ關スル者又ハ召喚ヲ受ケ以テ己レヲ防護シタル者ノ間ニ行ハル可キナリ故ニ此等ノ者ニ對セル裁判言渡ハ他ノ諸人ニ對シ決シテ執行スヘカラス之ヲ再言スルニ約子裁判言渡ハ之ニ管スル者ニ於ルノ外敢テ其効ヲ保ツ能ハサルカ故ニ他人ニ對シテハ之ヲ執行スルヿヲ得ス

身分証書改正ノ裁判言渡ニ於テモ亦此主義ヲ通用ス故ニ第百條ニ曰「身分証書改正ノ裁判言渡ハ時ノ如何ヲ問ハス該証書ニ管スル者ト雖モ其之ヲ請願

セサル者及ヒ其裁判ニ就テ特ニ召喚ヲ受ケサル者ニ對シテハ之ヲ執行ス可ラス」ト

此規則ハ時トシテ奇異ノ成跡ヲ伴隨スルヿアルヘシ例ヘハ茲ニポールナル者アリ而メプリュモース及ヒセキンジーストト云フ嫡出ノ二子ヲ遺シ其身已ニ死去セシニプリュモースハ會ヘ其住所ニ在ラサルヲ以テ獨リセキンジースノミ其遺物ヲ相續シタリトセン然ルニ他ニ又分明ナラサル父母ノ子ナリト其出産証書ニ記サレタルテルケオースナル者アリテ自ラポールノ嫡出ノ子タルヲ主張シ已ニ其遺物相續